

第3章 亀山構内教育学部附属幼稚園・山口小学校污水排水管布設に伴う発掘調査

1 調査の経過

幼稚園・山口小学校敷地では、昭和61年度に污水排水管布設に伴い試掘調査を実施している¹⁾。両敷地では、小学校グラウンド部分²⁾を除いて、それまでほとんど地下の状況が把握できていなかった。そのため、試掘調査は、予定された管路および集水枿の埋設地点のうち、校舎の存在する地域について重点的に行い、幼稚園敷地で4ヶ所、小学校敷地で12ヶ所の計16ヶ所を選定して、2m×2mを基本規模とするトレンチを設定して行った。

幼稚園敷地では、グラウンド部分から室町時代およびそれ以前の新旧二時期の土壌状の遺構、また、園舎棟と管理棟間の地点では、弥生土器を含む遺物包含層が検出されている。

小学校敷地では、低学年棟周辺で遺物包含層から4世紀代の遺物が多量に出土した。

試掘調査の結果を受け、埋蔵文化財資料館運営委員会は遺構、遺物包含層が検出された地点を中心に、周辺も含めた地域について工事前に事前の発掘調査を実施することとした。

調査は幼稚園敷地から開始し、調査順位に従って、A・B・C区……と呼称した。調査区は当初、幼稚園敷地で10ヶ所、小学校敷地で15ヶ所設定したが、本年報では、遺物包含層・遺構が全く認められなかった、幼稚園敷地7ヶ所、小学校敷地6ヶ所を除いた計12

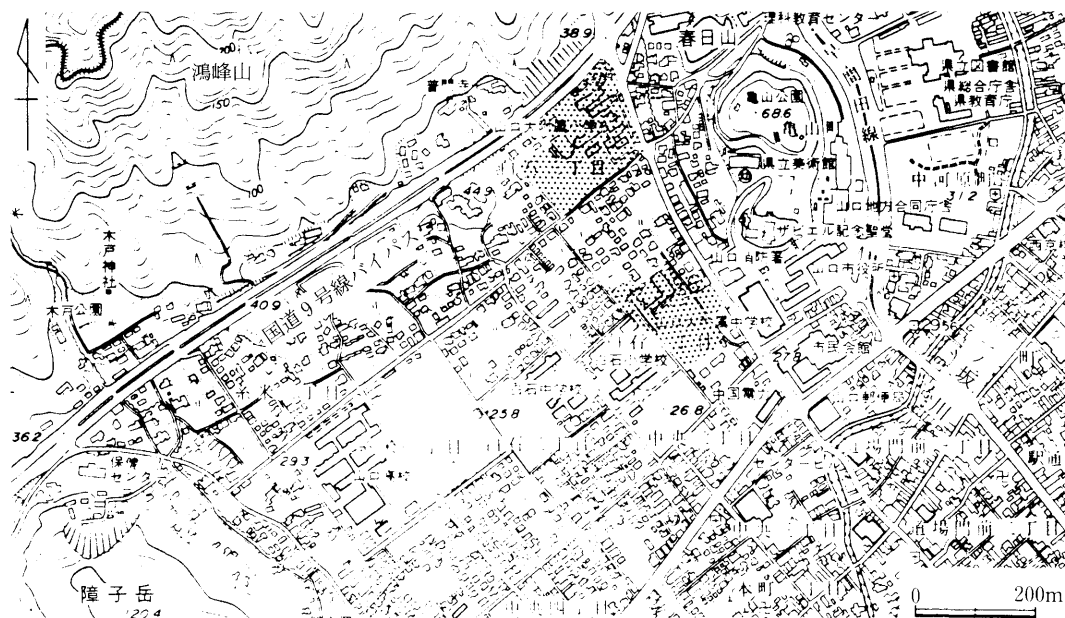


Fig. 7 調査区位置図

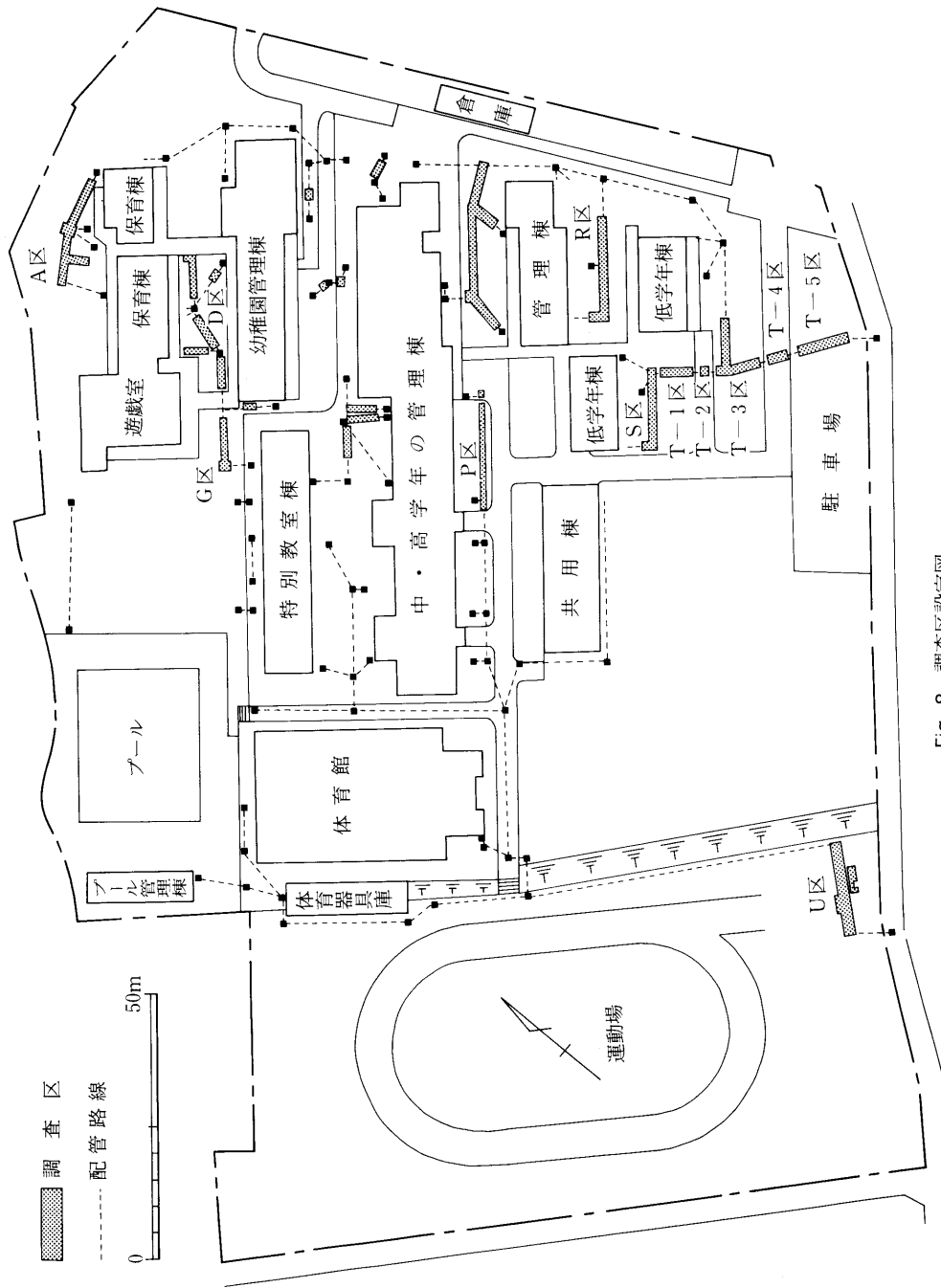
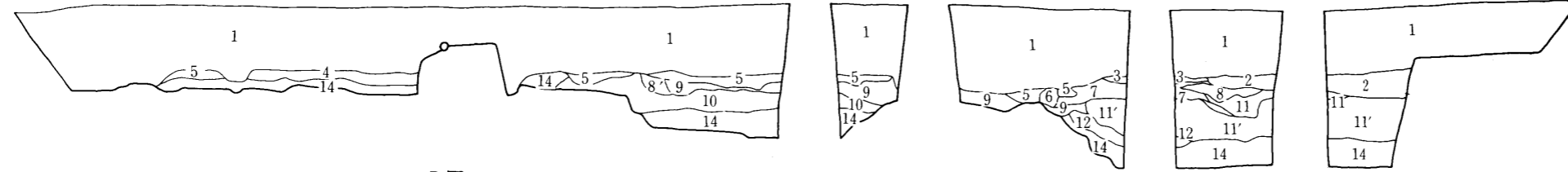


Fig. 8 調査区設定図

亀山構内教育学部附属幼稚園・山口小学校汚水排水管布設に伴う発掘調査

A区

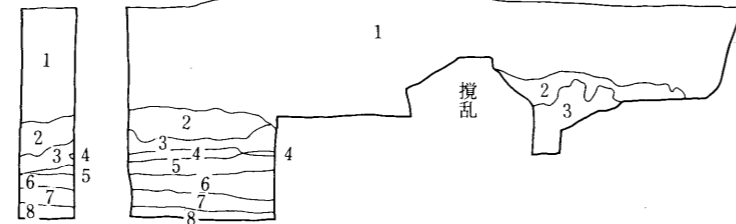
A 36.000m



- A区
- 1 表土
 - 2 黄灰色細砂混じり礫 (2.5Y4/1) 礫径 1~2cm主体
 - 3 黒褐色砂質土 (10YR3/2) 木炭を若干含む
 - 4 黄灰色礫混じり細砂 (2.5Y4/1) 礫径 3~4cm主体
 - 5 黒色粘質土 (2.5Y2/1)
 - 6 灰色細砂 (10Y4/1)
 - 7 暗褐色砂質土 (10YR3/3) 木炭を若干含む
 - 8 灰色砂質土 (5Y4/1) 木炭をやや多く含む
 - 8' 灰色砂質土 (5Y5/1)
 - 9 灰色細砂 (7.5Y4/1)
 - 10 礫~礫径 3~4cm主体
 - 11 砂礫~砂礫径 3mm主体
 - 11' 砂礫~砂礫径 5mm主体
 - 12 黒色粘土 (10YR2/1)
 - 13 黄灰色粗砂混じり礫 (2.5Y5/1) 礫径 3~4cm主体
 - 14 礫~礫径 5~6cm主体

D区

A 35.900m B 35.900m



- D区
- 1 表土
 - 2 黒褐色粘質土 (10YR3/2)
 - 3 黒色粘質土 (10YR2/1)
 - 4 灰色細砂 (7.5Y4/1)
 - 5 灰色礫混じり細砂 (5Y5/1) ~礫径 2cm主体
 - 6 砂礫~礫径 3cm主体
 - 7 黒色粘土 (7.5Y2/1) ~植物遺体を多量に含む
 - 8 礫~礫径 3cm主体

G区

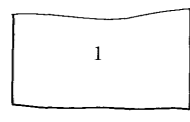
- G区
- 1 表土
 - 2 におい黄褐色土 (10YR5/4) 木炭を若干含む
 - 3 黄褐色砂質土 (2.5Y5/3)
 - 4 暗褐色粘質土 (10YR3/3)
 - 5 黒色粘質土 (10YR2/1)

G区

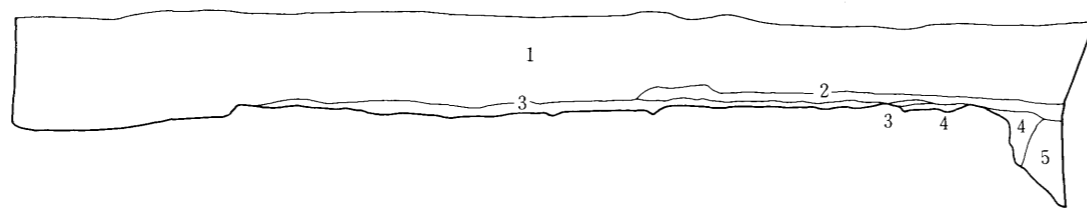
B 36.100m C



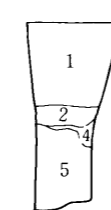
A 36.100m B



C 36.100m



D 36.100m E

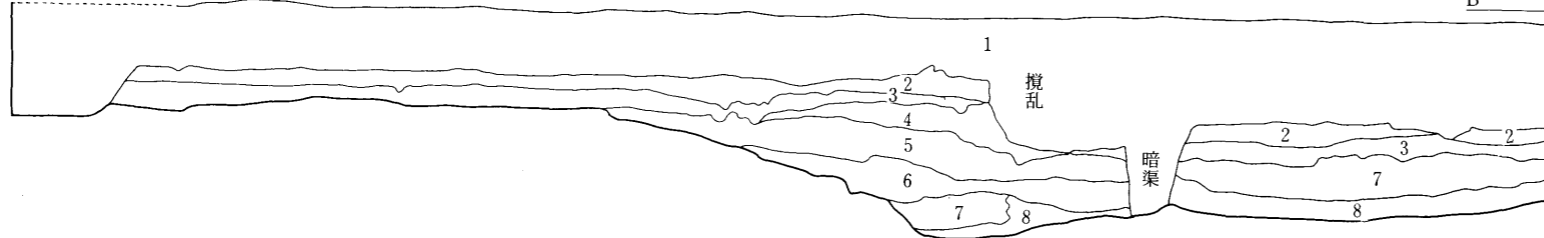


S区

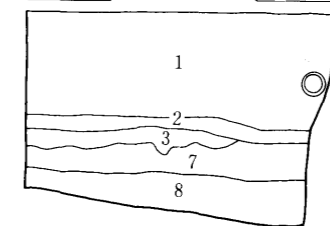
- S区
- 1 表土
 - 2 旧耕作土
 - 3 床土
 - 4 オリーブ褐色粘質土 (2.5Y4/3)
 - 5 黒褐色砂質土 (2.5Y3/2)
 - 6 暗灰黄色礫混じり細砂 (2.5Y5/2) 礫径 2~3cm主体
 - 7 暗灰黄色粘質土 (2.5Y4/2)
 - 8 礫~礫径 1~3cm主体
 - 7 黒褐色粘質土 (10YR3/2)
 - 8 黄灰色礫混じり粗砂 (2.5Y4/1) 礫径 1~3cm主体

S区

A 34.800m

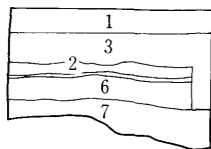


B 34.800m C

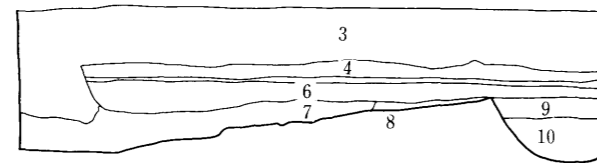


T-1区

A 34.400m B



B 34.400m C



T-2区

A 34.200m B

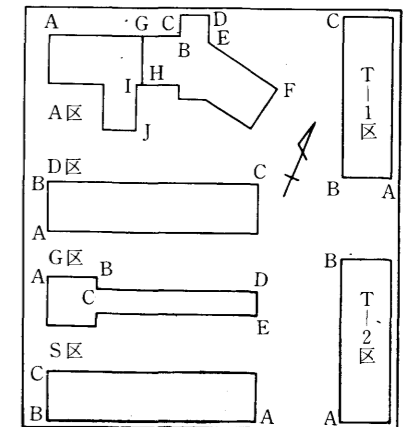
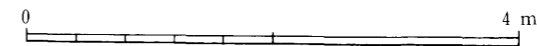
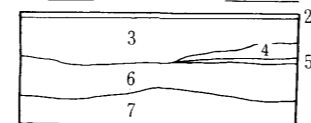


Fig. 9 土層断面実測図(1)

亀山構内教育学部附属幼稚園・山口小学校汚水排水管布設に伴う発掘調査

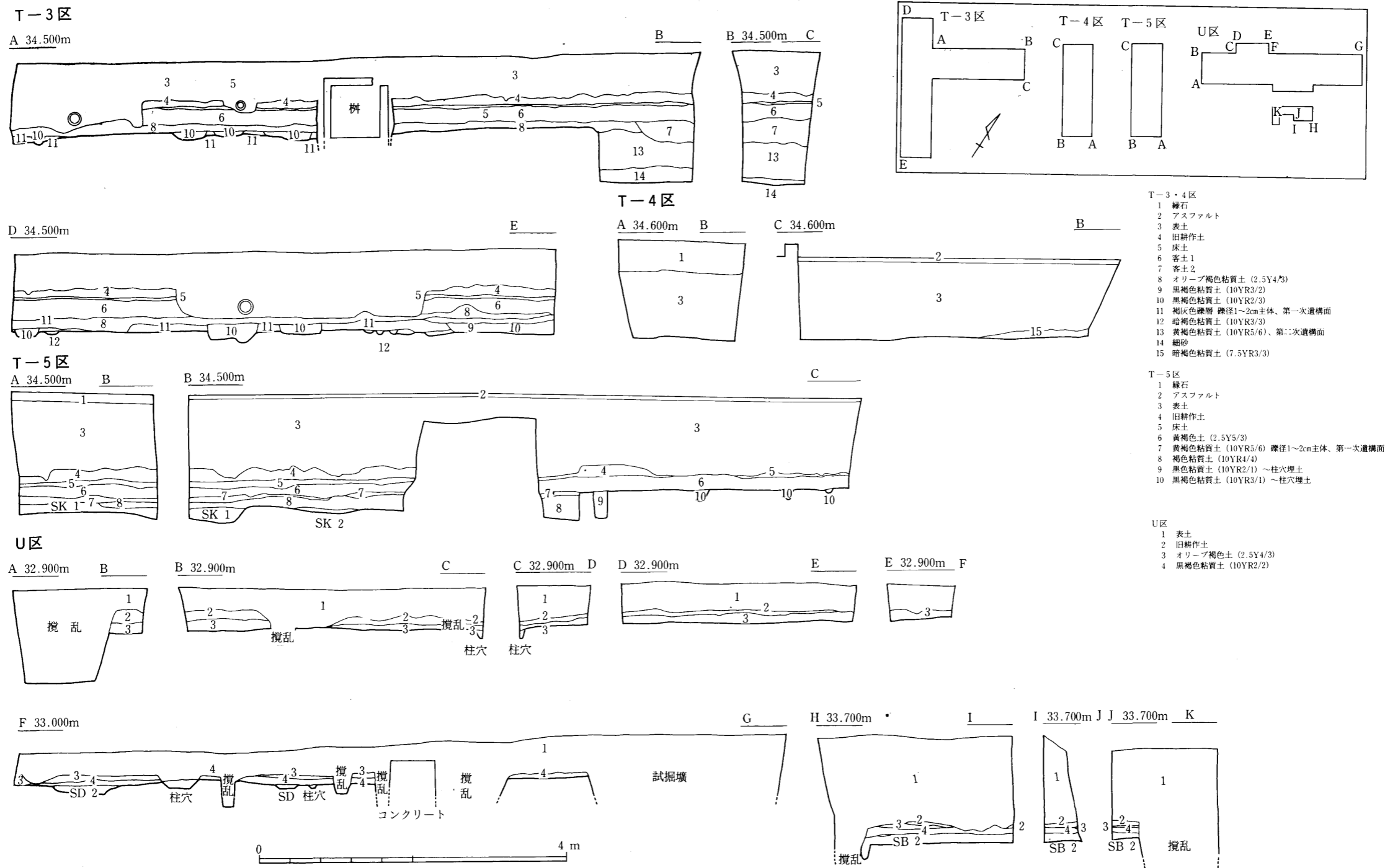


Fig. 10 土層断面実測図(2)

ヶ所の調査区について報告することにする。

調査期間は平成元年8月21日から10月22日までで、調査面積は約260㎡である。

2 層位・遺構

A区

幼稚園舎棟の北東に位置する1m×12mの調査区。層厚約60～70cmの構内造成時等の埋め土の直下が青灰色および浅黄色粘土の地山で、北東から南西に走行する河川跡を検出した。

河川跡 (Fig. 11, PL. 4・5(1))

調査区内全域が河川跡の流路にあたる。調査区東部の屈曲部で溝底を検出しているが、肩部の落ち込み、規模、流路方向が把握できなかつたため、障害物・既設管のない調査区中央部よりやや西の地点で、南方側に1m×2mの規模で調査区の拡張を行った。

その結果、拡張区の中央部で溝底と思われる最深部を検出した。両溝底の標高差は西側が約20cm低くなっており、北東から南西への流路が想定される。両溝底を結んだラインを中心にする、幅約3.6m以上の規模が算出されるが、拡張区南端部での地山の立ち上がり状況から、それ以上あまり規模は大きくならないものと考えられる。検出面からの深さは、西側の最浅部分で約20cm、同じく西側の溝底部分で約90cmである。

埋積土は、上層が黒色粘質土および黒褐色・黄灰色砂質土で、中・下層が礫径3～5cmを主体とした砂礫・礫の互層である。

遺物は、弥生土器壺・甕・鉢、土師器甕・高坏、剥片などが出土したが、溝底付近からは土師器に限定され、また、さほど新しい遺物も含まないため、庄内段階の比較的短期間に機能した河川跡と考えられる。

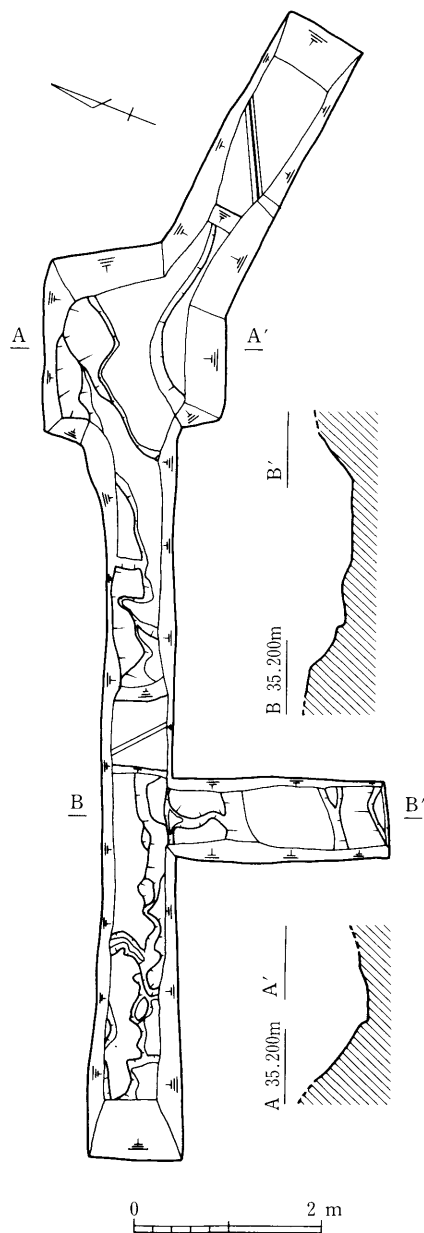


Fig. 11 A区河川跡実測図

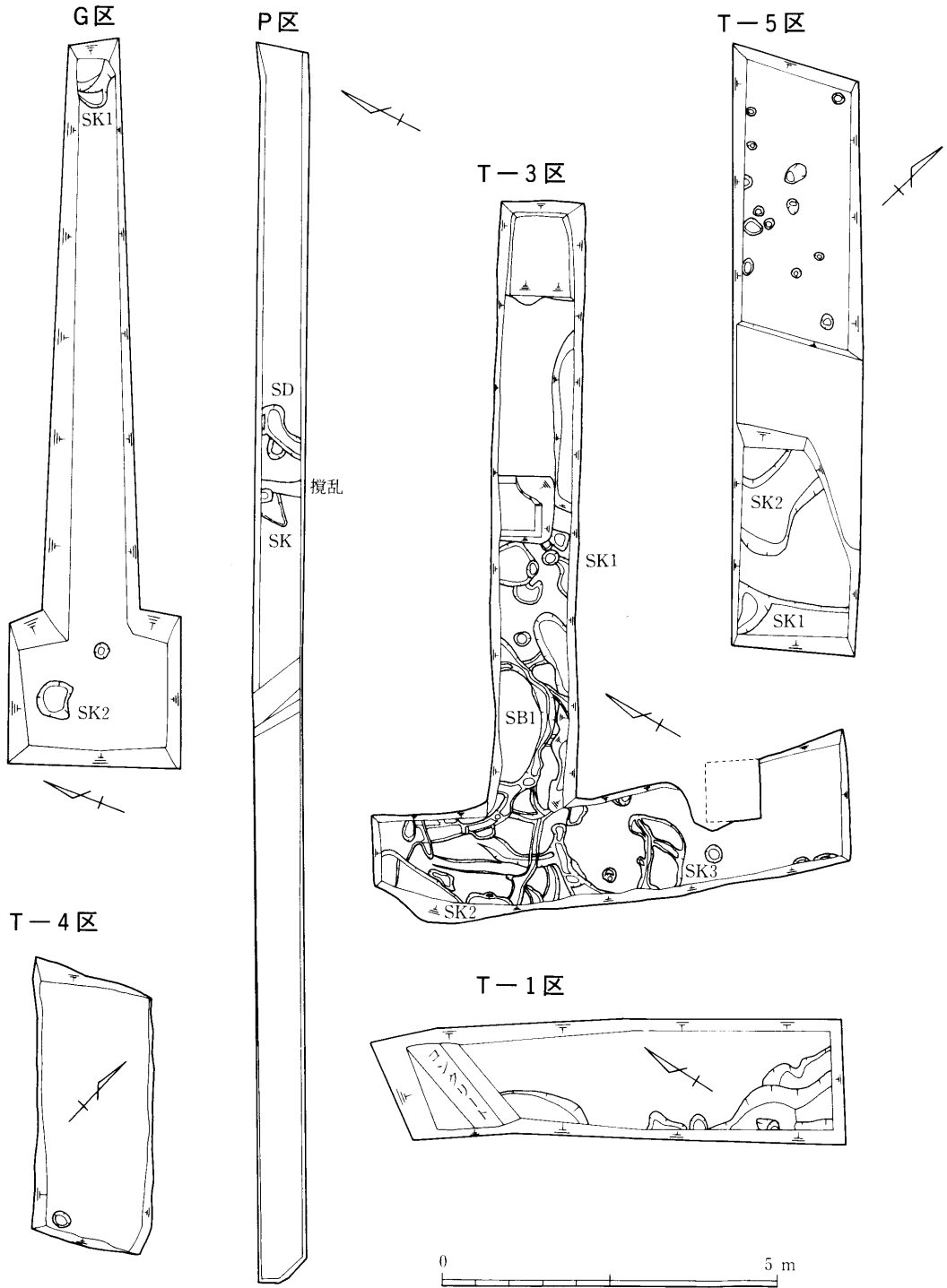


Fig. 12 遺構配置図

D区 (PL. 5(2))

A区の南約25m、園舎棟と管理棟間に位置する1 m×5.5mの調査区。旧建物の基礎が調査区の中央部付近に存在するため、南端部を中心に調査した。層厚約60～90 cmの構内造成時等の埋め土の下位には、上位から、層厚約40 cmの黒褐色・黒色粘質土、層厚約20 cmの細砂、層厚約40 cmの砂礫が順次堆積している。河川跡の埋積土と考えられるが、A区で検出した河川跡と同一のものかどうか分からない。

出土遺物には土師器、縄文土器などがあり、土師器を主体とする。

G区

D区の西約12m、幼稚園グラウンドに位置する1 m×11mの調査区。堆積層順は、東半部では、層厚約60 cmの構内造成時等の埋め土の下位に、木炭を若干含む第2層：にぶい黄褐色土、第3層：黄褐色砂質土が堆積し、地山に達する。西端部付近では、層厚約85 cmの埋め土の直下が地山である。遺構は東西両端部で土壇各1基、西端部で柱穴を検出した。柱穴は、上面径約15～20 cm、底面径約10 cm、検出面からの深さ6 cmの規模をもつ。埋積土は黒褐色砂質土 (Hue2.5Y3/2) で、出土遺物はない。

遺物は第3層から縄文土器、須恵器、歴史時代土師器、剥片など若干が出土した。

土壇

第1号土壇 (Fig. 12・13, PL. 6(1))

調査区の東端部で検出した。完掘しておらず、平面形態、規模は明かでないが、検出面からの深さは最深部で約50 cmである。埋積土は、上層が暗褐色粘質土、下層が黒色粘質土で、土師器若干が出土した。

第2号土壇 (Fig. 12・13, PL. 6(2))

調査区の西端部で検出した。平面形態は不整形な円形で、上面径約50 cm、底面径約35～40 cm、検出面からの深さ3 cmの規模をもつ。埋積土は灰オリーブ色砂質土 (Hue5Y5/2) で、歴史時代土師器が出土したが、詳細な時期はわからない。

P区

中・高学年棟の南に位置する1 m×20mの調査区。堆積層順は単純で、層厚約40～45 cmの構内造成時等の埋め土の直下が地山である。遺構は、調査区の中央部からやや東で土壇、溝状遺構を検出した。

土壇 (Fig. 12・13, PL. 7(1))

平面形態は不整形な楕円形状を呈し、長軸50 cm以上、短軸35 cm、検出面からの深さ8

亀山構内教育学部附属幼稚園・山口小学校汚水排水管布設に伴う発掘調査

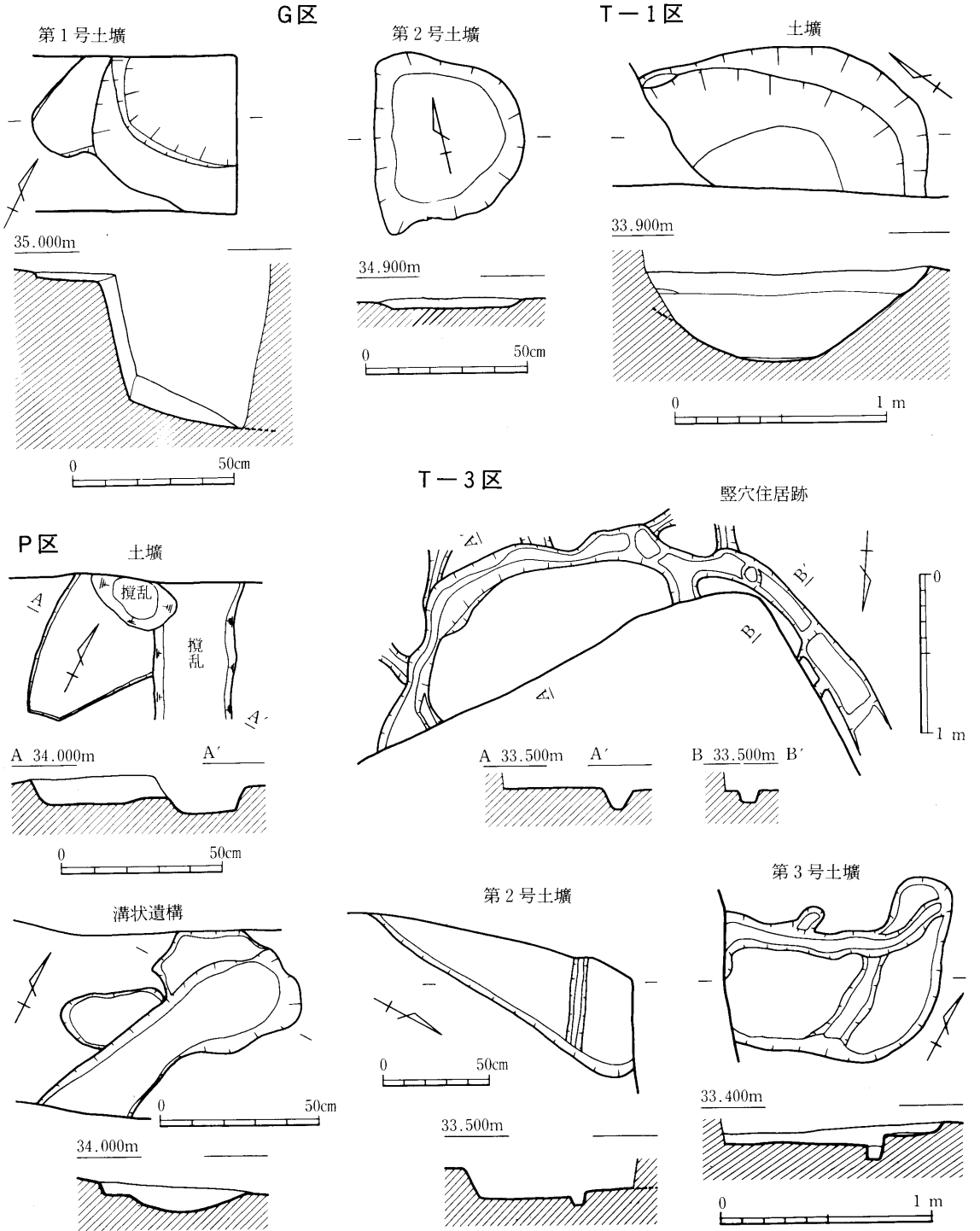


Fig. 13 G・P・T-1・T-3区遺構実測図

cmの規模をもつ。埋積土は暗褐色土（Hue10YR3/3）である。出土遺物はない。

溝状遺構（Fig. 12・13, PL. 6(3)(4)）

土壌のすぐ東を北-南に走行する溝で、黒褐色砂質土（Hue10YR2/2）を埋積土とする柱穴状の掘り込みに切られている。検出長は約90cmで、溝幅約20~30cm、検出面からの深さは最深部で8cmである。埋積土は灰黄色砂質土（Hue2.5Y6/6）で、出土遺物はない。

R区（PL. 7(2)）

旧特殊学級棟と低学年棟間に位置する1m×21mの調査区。堆積層順は単純で、層厚約40~50cmの構内造成時等の埋め土の直下が地山である。遺構は、調査区の西端部で柱穴を検出した。上面径約20cm、底面径約10cm、検出面からの深さ約30cmの規模をもつ。埋積土は黒褐色粘質土（Hue10YR3/2）である。出土遺物には土師器の小片1点がある。

S区（PL. 7(3)・8）

R区の南約10m、低学年棟の西に位置する1.5m×13mの調査区。層厚約50~80cmの構内造成時等の埋め土の下位に、旧水田耕作土、床土が残存し、調査区中央部より東側はその直下が地山となる。西側では、地山が西方に幅7m以上にわたって約1m近く急激に落ち込んでおり、計4層におよぶ遺物包含層が堆積している。

最上層の第4層：オリーブ褐色粘質土は最大層厚約30cmで、黒色土器、瓦質土器、土師器を包含するが、量的にはきわめて少ない。第5層：黒褐色砂質土は最大層厚約40cm、平均約20~30cmの層厚をもち、第4層同様、落ち込みの東半部に分布する。出土遺物には土師器、須恵器、二次加工のある剥片・使用痕のある剥片などがある。第7層：黒褐色粘質土は約20~30cmの層厚をもち、弥生土器、土師器、須恵器などを包含する。第8層：黄灰色礫混じり粗砂は最大約40cm、平均約20cmの層厚をもち、地山直上に堆積する。弥生土器、土師器などが出土した。各包含層とも主体となる遺物は4世紀代のものであるが、時期の隔たる遺物が混入しており、一時期の堆積層とは考えられない。

なお、調査区中央部に存在する旧水田に伴う暗渠から土師器、須恵器が出土した。

遺構は、調査区東端部で黒褐色砂質土を埋積土とする柱穴2個を検出した。いずれも上面径約25cm、底面径約15cm、検出面からの深さ6cm前後の規模をもつ。埋積土はオリーブ褐色粘質土である。出土遺物はない。

T-1区

S区のすぐ南東に位置する1.5m×7mの調査区。層厚約50cmの構内造成時等の埋め土の下位に、旧水田耕作土、床土が残存する。その下には、上位から歴史時代土師器、瓦質土

器を若干包含する層厚約20cmの黄褐色土、層厚約20～30cmの暗灰黄色粘質土の2層の遺物包含層が堆積し、地山に至る。地山は南に向かって下降しており、北端部で土壌を検出した。

土壌 (Fig. 12・13, PL. 9(1)(2))

旧建物の基礎によって完掘できなかった。平面形態が円形系統の土壌で、壁面は墳底からゆるやかに立ち上がり、検出面からの深さは約40cmである。埋積土は、上層が暗灰黄色土、下層がオリーブ褐色土で、両層から土師器、瓦質土器などが出土した。15～16世紀。

T-2区 (PL. 9(4))

T-1区のすぐ南に位置する1.5m×7mの調査区。堆積層順はT-1区と同様で、埋め土もしくは床土の下位に、歴史時代土師器、瓦質土器を若干包含する黄褐色土、暗灰黄色粘質土の2層の遺物包含層が堆積する。層厚は各層とも約20～30cmである。

T-3区

T-2区のすぐ南に位置する南北1.5m×7m、東西1.5m×9mの調査区。層厚約50cmの構内造成時等の埋め土の下位に、旧水田耕作土、床土が残存する。その下には、厚さ約20cmの客土をはさんで、層厚約10～15cmのオリーブ褐色・黒褐色粘質土 (Hue10YR3/2) の無遺物層が堆積する。その下位には2枚の遺構面が存在する。上位の遺構は褐灰色礫層を掘り込む竪穴住居跡、土壌、溝状遺構、柱穴で、下位の遺構は黄褐色粘質土を掘り込む土壌、溝状遺構、柱穴である。

竪穴住居跡 (Fig. 12・13, PL. 10(2)・11(2))

上位の遺構面で検出した。調査区の西部に位置し、弧状に巡る溝を竪穴住居跡の壁溝と判断した。平面形態が円形系統の住居跡で、完掘していないが、径約4m前後の規模をもつものと考えられる。壁溝は幅約20cm、検出面からの深さ約10～15cmで、埋積土は黒褐色粘質土 (Hue10YR2/3) である。調査区内で柱穴は検出していない。

出土遺物はないが、平面形態、埋積土などから弥生時代中～後期のものであろう。

土壌

第1号土壌 (Fig. 12, PL. 12(1))

上位の遺構面で検出した。調査区の北西隅に位置する、平面形態が方形系統の土壌である。東辺1.4m以上、検出面からの深さ15cmの規模をもつ。埋積土は黒褐色粘質土 (Hue10YR2/3) で、土師器、搔器が出土した。古墳時代。

第2号土壌 (Fig. 12・13, PL. 12(2))

上位の遺構面で検出した。第1号土壌の南西約4.5mに位置する。平面形態は不整形な楕

円形状を呈し、長軸1 m以上、短軸約60 cm、検出面からの深さ20 cmの規模をもつ。出土遺物はないが、埋積土が第1号土壌同様、黒褐色粘質土 (Hue10YR2/3) であることから、古墳時代のものと考えられる。長軸方向は南-北。

第3号土壌 (Fig. 12・13, PL. 10(1)・11(1))

下位の遺構面で検出した。第2号土壌の南東約3.5mに位置する。平面形態は不整形な楕円形状を呈し、長軸1 m以上、検出面からの深さ15 cmの規模をもつ。埋積土は暗褐色粘質土で、出土遺物はなく、時期不明。

T-4区 (Fig. 12, PL. 12(3))

T-3区のすぐ南に位置する1.5m×4 mの調査区。層厚約90 cmの構内造成時等の埋め土の下位は、南半部では地山となる。北半部では土師器、歴史時代土師器を若干含む層厚約10 cmの暗褐色粘質土が堆積し、地山へと移行する。遺構は調査区の南隅で、柱穴を検出した。上面径約25 cm、底面径約15 cm、検出面からの深さ16 cmの規模をもつ。埋積土は暗褐色粘質土で、土師器が出土した。古墳時代。

T-5区

T-4区のすぐ南、小学校敷地の南西端部に位置する2 m×9 mの調査区。調査区中央部は旧建物の基礎のため調査できなかった。層厚約90~100 cmの構内造成時等の埋め土の下位には、旧耕作土、床土が残存する。その下には、3層の遺物包含層が堆積し、包含層の下位は砂礫となる。

包含層の上層は、層厚約10~20 cmの第6層：黄褐色土で、須恵器、歴史時代土師器、土師質土器、瓦質土器、陶器、使用痕のある剥片などが出土した。中層は、層厚約10 cmの第7層：黄褐色粘質土で、弥生土器、須恵器、歴史時代土師器、土師質土器、瓦質土器、陶器を包含する。下層は、層厚約10~30 cmの第8層：褐色粘質土で、土師器、須恵器、歴史時代土師器、土師質土器、使用痕のある剥片・石核などを含む。各包含層とも単一時期の遺物で構成されていない。

遺構面は第7層、砂礫層の時期差のある上下2面が存在する。上位の遺構には、調査区の北半部で検出した12個の柱穴がある。上面径は10 cm前後のものと20 cm前後のものがあり、深さは15 cm前後のものが大半である。埋積土は、黒色粘質土、黒褐色粘質土、灰オリーブ色土 (Hue5Y5/2) の3種がある。遺物は、黒色粘質土を埋積土とする4個の柱穴から歴史時代土師器が出土した。下位の遺構は、調査区の南半部で検出した2基の土壇状の遺構である。

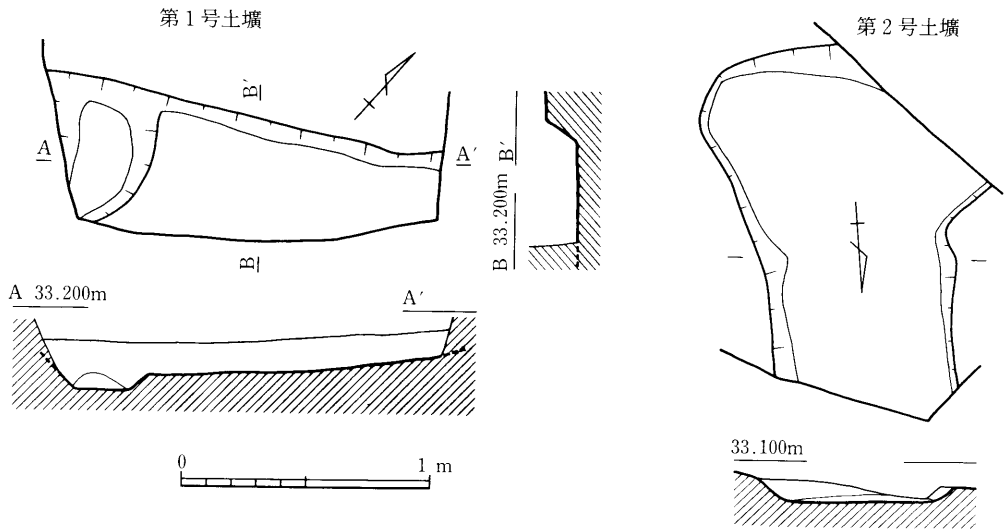


Fig. 14 T-5区遺構実測図

土壙

第1号土壙 (Fig. 12・14, PL. 14(2))

調査区の南端部に位置する、長辺 160 cm 以上、短辺 60 cm 以上の土壙である。壙底は北東から南西にゆるやかに下降し、西端部でやや落ち込む。検出面からの深さは平均で 13 cm、最深部で 20 cm である。埋積土はにぶい黄褐色土 (Hue10YR4/3) で、歴史時代土師器が若干出土した。

第2号土壙 (Fig. 12・14, PL. 14(3))

第1号土壙のすぐ北西に位置する。長軸 140 cm 以上、短軸 80 cm、検出面からの深さ 5～8 cm の規模をもつ。埋積土は第1号土壙同様、にぶい黄褐色土 (Hue10YR4/3) である。出土遺物はない。長軸方向は北-南。

U区

小学校グラウンドの南西端部に位置する 2 m×17m の調査区。層厚 30～40cm の真砂および構内造成時等の埋め土の下位には、旧耕作土が残存する。その下には第3層：オリーブ褐色土、第4層：黒褐色粘質土の2層の遺物包含層が堆積し、地山へと続く。包含層の層厚はそれぞれ約 10cm で、第3層から土師器、須恵器、第4層から土師器、砥石が出土した。

遺構は、竪穴住居跡 2 棟、土壙 1 基、溝 4 条のほか、柱穴 6 個を検出した。

なお、竪穴住居跡を検出した地点では、調査区を可能な限り南側に拡張して調査を行った。

竪穴住居跡

第1号竪穴住居跡 (Fig. 15・16, PL. 16)

調査区のほぼ中央部に位置する平面形態円形の住居跡で、第2号竪穴住居跡に切られている。大半が調査区外にあたるため、規模、内部構造、支柱数などは判然としない。検出面からの深さは8cmである。建て替えが行われたと考えられ、壁溝が二重に巡る。内側の壁溝は幅約20cm、床面からの深さ6~8cm、外側の壁溝は幅約10cm、床面からの深さは3cm。埋積土は黒褐色粘質土 (Hue10YR2/2) で、弥生土器甕などが出土した。甕の底部の形状から弥生時代後期でも新しい時期から庄内併行期のものであろう。

第2号竪穴住居跡

(Fig. 15・17, PL. 16(1)・17(1))

平面形態が方形系統の住居跡で、第1号竪穴住居跡を切っている。西辺3.6m以上、検出面からの深さ10cmの規模をもつ。壁溝は認められず、床面の北西隅および中央部より西側に、2基の不整形な楕円形状の掘り込みが存在する。前者は、長軸140cm、短軸65cm、床面からの深さ約20cmの規模をもち、壁面に接している。後者は、長軸95cm以上、短軸90cm、床面からの深さは約30cmである。床面に柱穴が6個存在するが、支柱数は判然としない。埋積土は黒褐色粘質土で土師器甕、埴など出土した。庄内古段階。

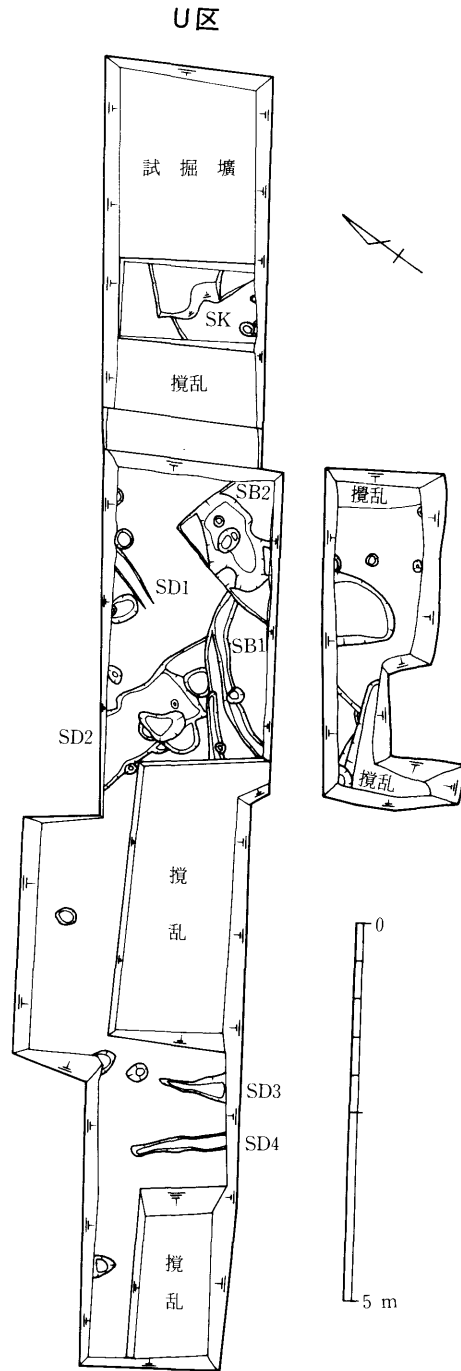


Fig. 15 U区遺構配置図

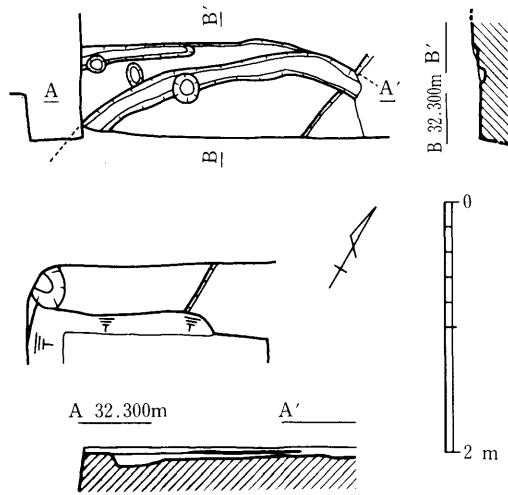


Fig. 16 U区第1号竪穴住居跡実測図

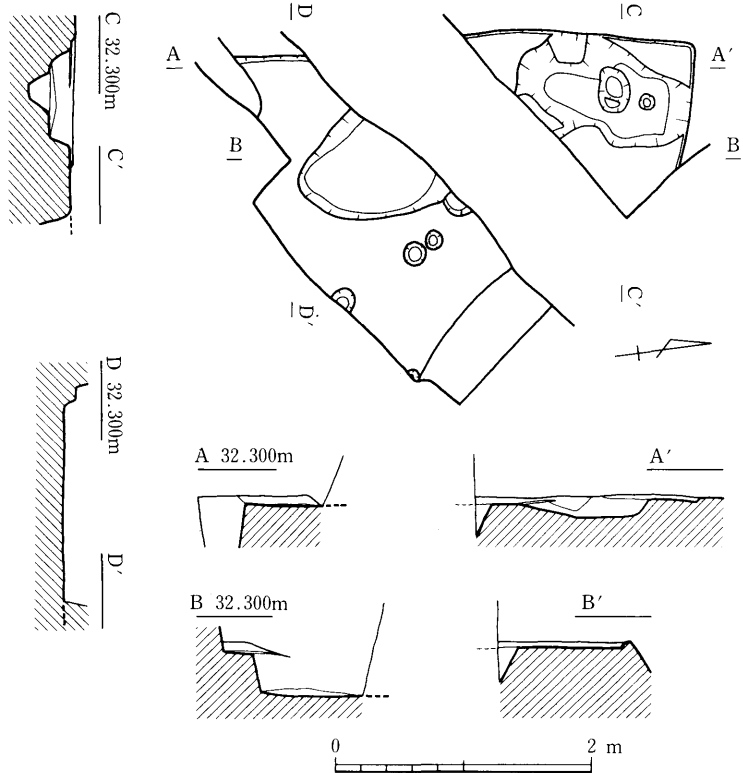


Fig. 17 U区第2号竪穴住居跡実測図

土壌

(Fig. 15・18, PL. 17(2))

調査区の東端部に位置する。北隅が後世の攪乱によって消失しているが、方形系統の平面形態をもつものと考えられる。東辺130 cm以上、検出面からの深さ10 cmの規模をもつ。東西両辺が直線的であること、および床面が平坦で内部に柱穴が存在することから、竪穴住居跡の可能性はある。

出土遺物には土師器の小片若干があるが、埋積土が黒褐色粘質土 (Hue10YR2/3) であることから、第2号竪穴住居跡と時期的に大差ないものであろう。

溝

第1号溝

(Fig. 15, PL. 16(1)・17(1))

第2号竪穴住居跡のすぐ西を北-南に走行する。検出長は約90 cmで、溝幅約20 cm、検出

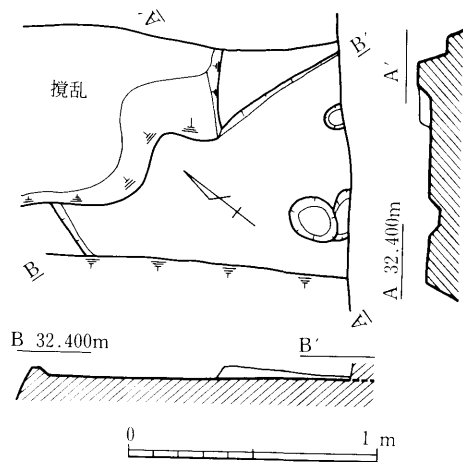


Fig. 18 U区土壕実測図

面からの深さは最深部で約5cmの規模をもつ。埋積土は黒褐色粘質土 (Hue10YR2/3) である。出土遺物はない。

第2号溝 (Fig. 15, PL. 16)

第1号溝のすぐ南西に位置し、北西-南東に走行する溝で、第1号竪穴住居跡に切られている。検出長は約2mで、溝幅約60cm、検出面からの深さは最深部で約15cmの規模をもつ。埋積土はオリーブ褐色粘質土 (Hue2.5Y4/3) である。出土遺物はない。

第3号溝 (Fig. 15, PL. 15)

調査区の西端部付近に位置し、北西-南東に走行する溝である。検出長は約90cmで、溝幅約15~40cm、検出面からの深さは最深部で約10cmの規模をもつ。埋積土はオリーブ褐色粘質土 (Hue2.5Y4/3) である。出土遺物はない。

第4号溝 (Fig. 15, PL. 15)

第3号溝のすぐ西を北西-南東に走行する。検出長は約1.3mで、溝幅約15~25cm、検出面からの深さは最深部で約10cmの規模をもつ。埋積土は暗褐色粘質土 (Hue10YR3/3) である。出土遺物はない。

3 出土遺物

土器

A区 (Fig. 19-1~15, PL. 18)

1は弥生土器の壺。やや上げ底の底部。2~5・13は弥生土器の甕。2~4は底径が小さく、上げ底。5・13は平底。5は内底面に指頭圧痕が残る。6は弥生土器の鉢。体部は内弯して立ち上がり、口縁は外反しながら外傾する。口縁端部はやや尖る。

7~12・14は土師器の甕。7は頸部に明瞭なくびれがない。口縁端部は丸い。体部内面は風化しているが、ケズリと思われる。9はやや厚い器壁をもち、丁寧なナデを施す。8は口縁中位がやや膨らみ端部は外面に面をもつ。体部内面に横方向に板状工具による擦過が、体部外面に右上がりのタタキが施される。外面頸部には、刷毛目がナデ残される。10は体部外面に横方向のタタキが施される。8・10は畿内系。11・12・14は山陰系。11は器壁が厚く、口縁端部は丸い。体部内面は右上がりのケズリ。外反する口縁を下向きにまで、

頸部との境の稜に粘土の盛り上がりが見られる。12も体部内面にケズリを施すが方向は不明。器壁は薄く、ナデの部分は丁寧。体部外面に煤が付着する。14は口縁の器壁の凹凸が大きい。口縁を外側に引き出し、端部は丸味を帯びる。15は土師器の高坏。体部はわずかに外反し、口縁端部は外側に面をもつ。

遺物はすべて河川跡から出土。

D区(Fig. 19—16~18, PL. 18)

16は縄文土器の甕。口縁はほぼ直立し、口縁端部のやや下に突帯を貼付け、ヘラで刻み目を施す。

17・18は土師器の高坏。17は坏部。上部外面は、粗い刷毛の後ナデを施し、屈曲部には上から寄せられた粘土が盛り上がる。18は脚部。端部は外面が肥厚し、丸い。

遺物はすべて河川跡から出土。

G区 (Fig. 19—19, PL. 18)

19は歴史時代の土師器の皿。器壁が風化し、外底面の調整は不明。体部はナデ。第3層出土。

S区 (Fig. 20, PL. 18・19)

20は弥生土器の壺。頸部に突帯を貼付け、布を巻き付けた指頭で刻み目を施す。21・23は弥生土器の甕。やや上げ底の底部。23は内面に明瞭な指頭圧痕がある。

24・25は土師器の小形丸底壺。24は体部は球形。口縁は内弯し、端部は丸い。体部内面には横方向のケズリを施す。25はやや器壁の厚い口縁で、直線的に伸びる。22・26~36は土師器の甕。22・26・30は口縁端部がやや肥厚し、外側に面をもつ。27は口縁中位で屈曲し、口縁端部内面はケズリによる面をもつ。布留系。28・31・33は口縁が肥厚し、端部は丸い。29は口縁に丁寧なナデを施し、端部はやや尖る。32は体部内面にケズリを施し、口縁端部はやや尖る。34は体部内面に横方向のケズリを施し、やや器壁の厚い口縁は外反して外傾し、端部はやや尖る。35は体部内面に横方向のケズリを施し、口縁は直線的に伸び、端部は丸い。36はタタキの施された胴部の破片。器壁は薄く丁寧な作り。畿内系。37は土師器の鉢。体部はゆるく内弯して立ち上がり、口縁は外側につまみ出される。端部は外面に竹管状の工具を押し当て口縁部を作り出す。38は土師器の碗。内弯した体部から直立して伸びる口縁に続く。口縁端部はやや尖る。内外面に幅広のミガキを施す。39~49は土師器の高坏。39は坏部。体部は直線的に伸び、口縁端部はわずかに外につまみ出し、尖る。40は坏部。内面はなだらかなカーブを描くが外面は屈曲部をもつ。41は坏部~脚部。

出土遺物

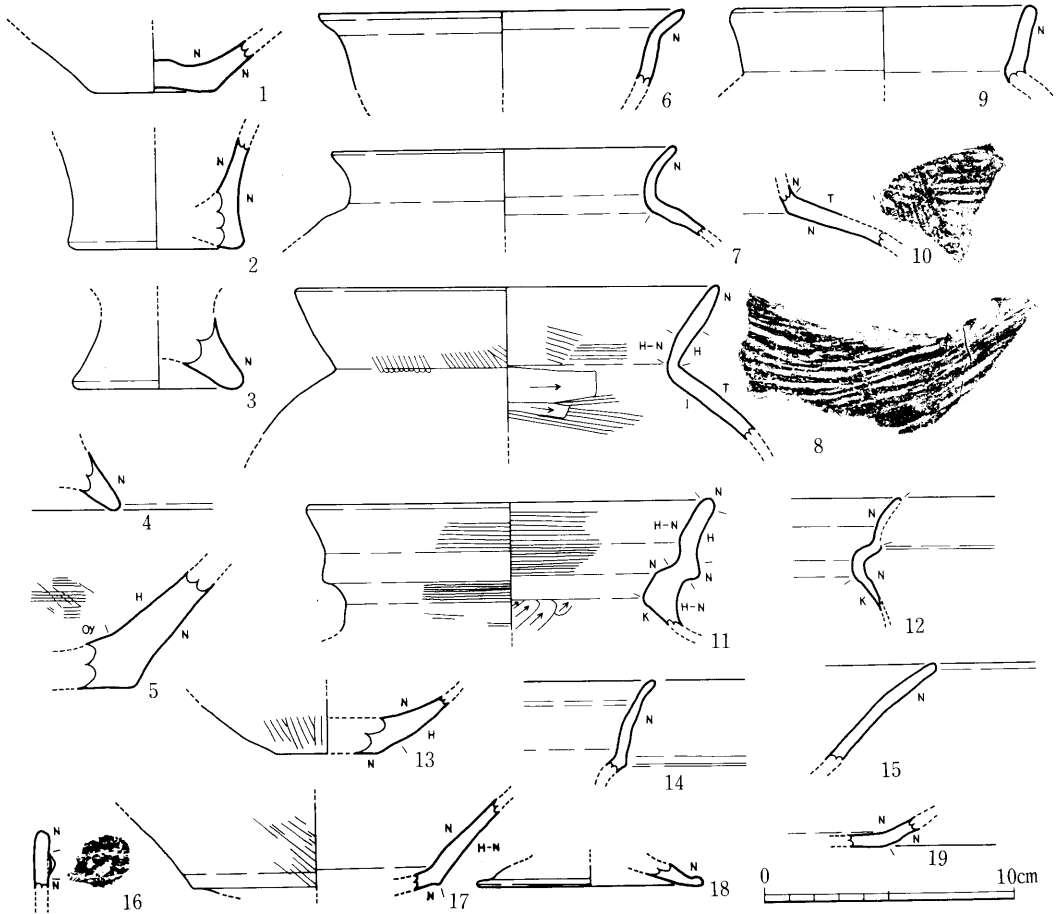


Fig. 19 出土遺物実測図(1)

体部の下部を浅い皿状に成形した後に上部に粘土帯を接合して作り、接合面は擬口縁をなす。内外面ともヘラ状工具によるミガキを施し、平らで滑らか。脚基部は、脚の接合のためにナデを施す。45は42同様に坏部を粘土帯の接合によって成形。42は、坏部～脚部。円筒形の脚を坏に貼付けて成形するが、脚内面中央を充填したものか、坏部から引き出したものかは不明。43・44は脚部。いずれも穿孔は残存部が少なく不明。44は、内面上部に横方向のケズリを施すと思われる。46～49は脚部。46は脚部が直線的に伸び、端部は尖る。47～49は裾部で明瞭に屈曲する。47は内外面にきわめて丁寧なナデを施し、49は内面上部に横方向のケズリを、外面にはミガキを施す。

50は須恵器の坏蓋。口縁はゆるく内弯。端部はつまみだして段をもち、やや尖る。

51・52は黒色土器の埴。内面のみをいぶすいわゆる内黒である。高台は断面三角形を呈

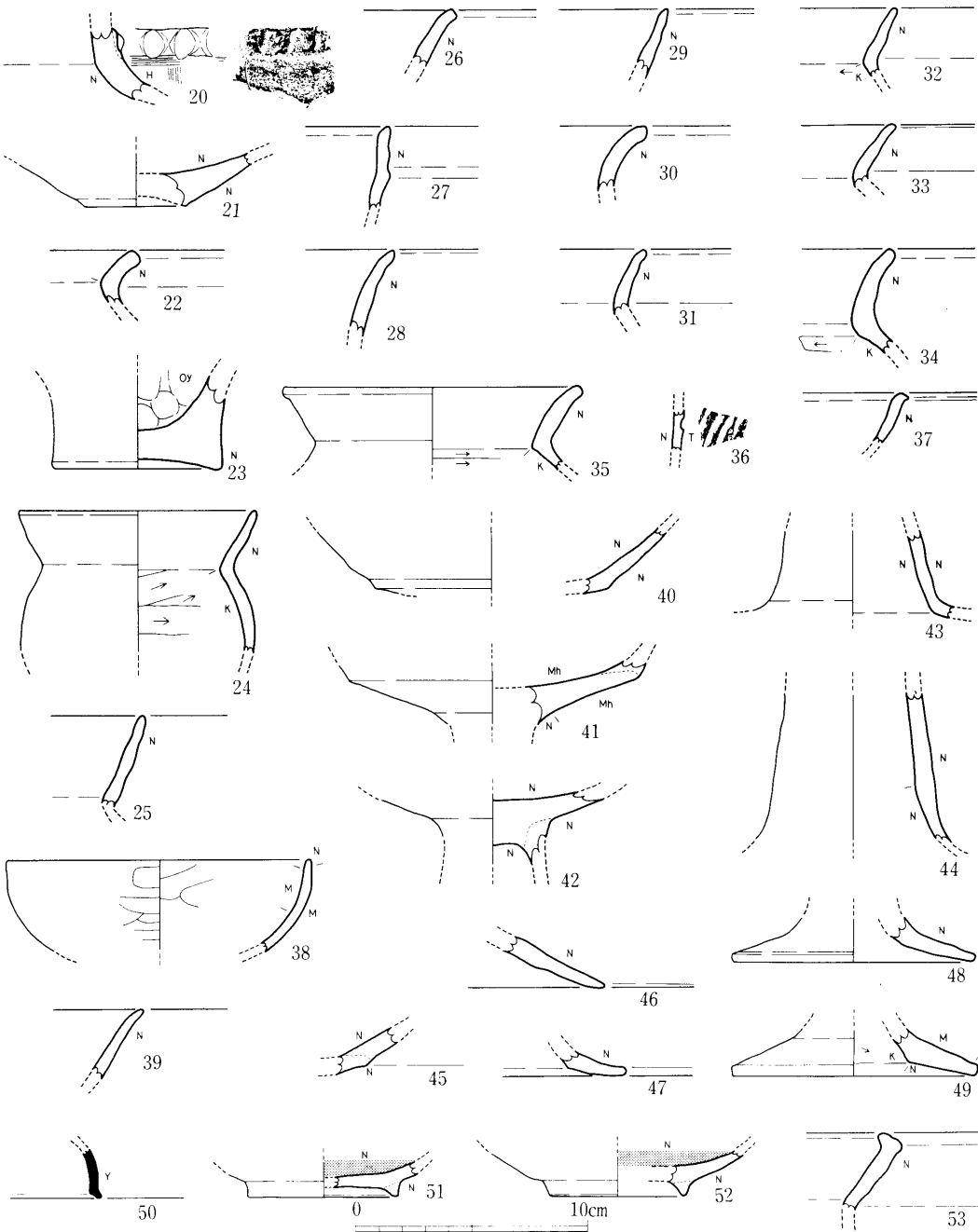


Fig. 20 出土遺物実測図(2)

し、やや外に転ぶ。第4層出土。

53は瓦質土器の鍋。口縁端部を引き出し、内側に屈曲させる。第3層出土。

出土遺物

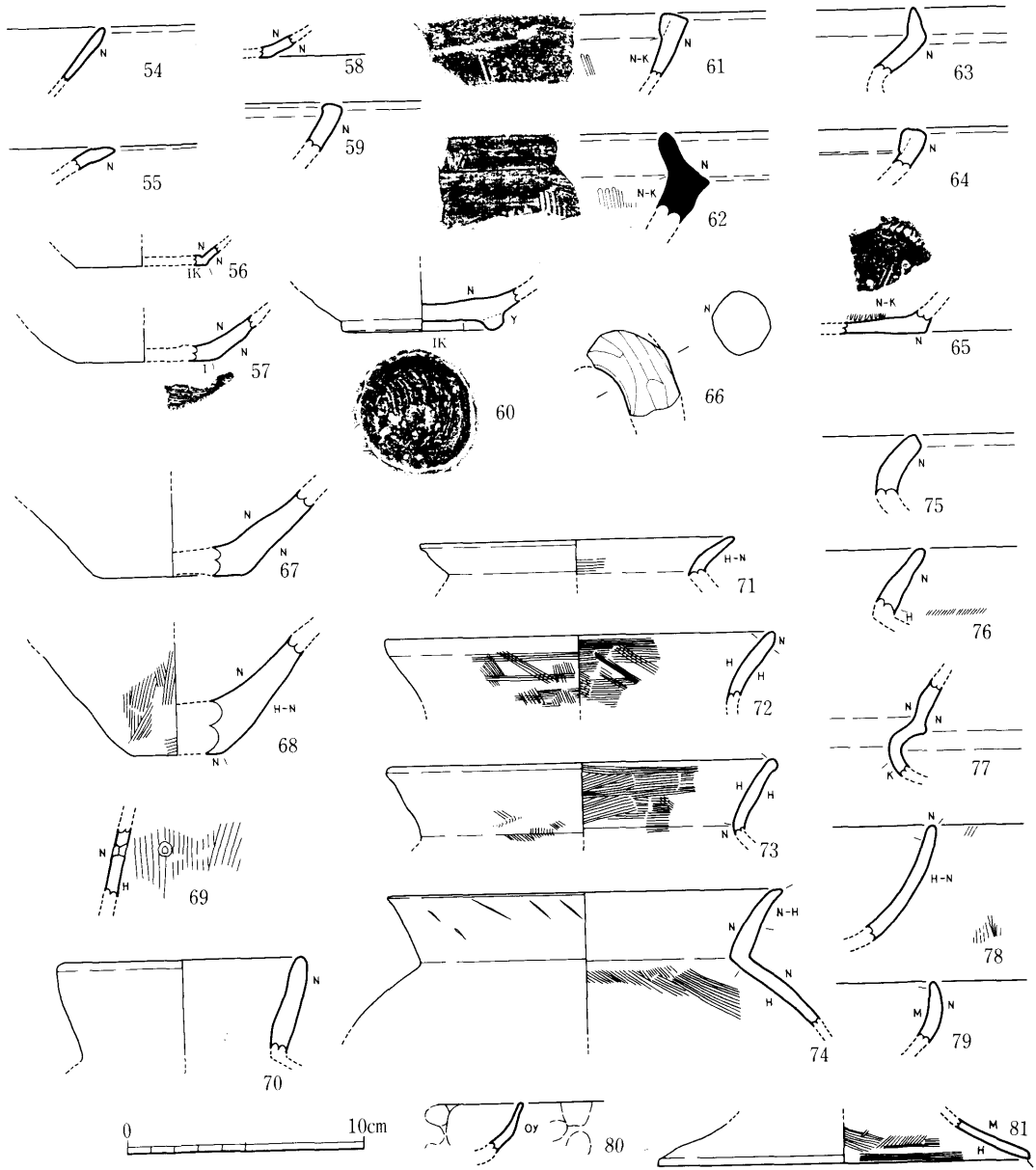


Fig. 21 出土遺物実測図(3)

26・42・43 は第5層、20～22・30・33・39～41・44・47・48・50 は第7層、23～25・28・29・31・32・34・36～38・49 は第8層出土。27・46 は暗渠出土。35・45 は表採。

T-1区 (Fig. 21-55・59・60・63・66, PL. 19・20)

60を除いた4点は第1号土壙から出土。55は土師器の皿。器壁はやや厚く端部でやや膨

らみ先端は急に細くなる。大内氏館跡でいうB式土師器にあたる。59は土師質土器の鍋。端部は内側が肥厚する。63・66は瓦質土器の鍋。63は口縁端部を引き出し、内側に屈曲させる。15世紀代。66は脚部。断面はほぼ円形を呈し、表面はナデによる凸凹が明瞭。

60は土師器の塊。高台の断面は五角形を呈し内側が接地する。底部は静止糸切り。攪乱層出土。

T-5区 (Fig. 21-54・56~58・61・62・64・65, PL. 19・20)

54・56~58は土師器の皿。54は体部が直線的に伸び、口縁はやや肥厚し端部は丸い。56は内面の底部と体部との境にロクロ成形時の凹線が巡る。底部糸切り。57は、外底面に板状圧痕がつく。61は土師質土器の搗鉢。口縁端部は内面に折り返し肥厚させる。おろし目は2本しか確認できない。64・65は瓦質土器の搗鉢。64の口縁端部は61と同じく、内面に折り返し肥厚させる。65は内底面にもおろし目を施す。単位は5本。62は須恵質陶器の搗鉢。口縁を引き上げ内傾させる。おろし目の単位は6本以上。

56・58・61・65は第6層から、62・64は第7層から、54・57は第8層から出土。

U区 (Fig. 21-67~81, PL. 20)

67・68は弥生土器の甕。平底の底部。69は弥生土器の甕もしくは壺の胴部。器壁に焼成後の両面からの穿孔がみられる。

70は土師器の壺。口縁端部の上面に面をもつ。71~77は土師器の甕。71は口縁端部が肥厚し、外面上部に煤が付着する。72は口縁端部の上面に面をもつ。73は口縁端部が肥厚する。口縁内面にも刷毛を施し、刷毛の単位は10本以上。74は口縁端部が外方につまみ出される。口縁外面には、ナデの後ヘラ状工具で不規則な右下がりの斜線を刻む。75は口縁が外反し、端部は外面に面をもつ。76は口縁が直線的に伸び、頸部外面には刷毛目がナデ残される。77は胴部内面にケズリを施す。外面には煤が付着する。山陰系。78・79は土師器の碗。体部はゆるく内弯して立ち上がる。78は口縁端部が丸い。79は口縁端部が尖り、内面にミガキを施す。81は土師器の高坏。外反気味に伸びる脚部で、端部は外面に面をもち、尖る。80は土師器の鉢。手捏による成形で、指頭圧痕が明瞭に残る。端部は薄く尖る。

71・78は第1号竪穴住居跡、68・69は第2号竪穴住居跡、79は第3層、他は第4層出土。石器 (Fig. 22, PL. 20)

搔器 (1)

厚手の横長剝片を素材とし、下縁に腹面側から調整加工を施し刃部とする。腹面側が主要剝離面で、下半部左方向からの加撃によって打点を除去する。T-3区第1号土壙出土。

出土遺物



Fig. 22 出土遺物実測図(4)

二次加工のある剥片 (2)

縦長剥片を素材とし、上下両縁に調整加工を施す。背面右側縁上半部は腹面側からの加撃によって素材を変形させる。背腹両面とも剥離方向は上からである。S区第5層出土。

使用痕のある剝片（3～6）

3は寸づまりの小形の横長剝片を素材とし、背面右側縁中央部に連続する微細な剝落痕が認められる。背腹両面の剝離方向は同一で、打点が残存する。4は大半を欠損するが、リングから素材は縦長剝片であろう。背腹両面とも剝離方向は上からであるが、主要剝離面はわからない。背面右側縁に使用痕が認められる。5は縦長剝片を素材とし、腹面左側縁の大部分に使用痕が認められる。腹面側が主要剝離面で、打面、打点が残存する。6は素材の大半を欠損する。背面下縁に連続する剝落痕が認められる。腹面側が主要剝離面で、左側縁上部の剝離面は剝片剝離後のものである。背腹両面の剝離方向は90°もしくは180°ずれる。3・4はS区第5層、5はT-5区第6層、6はT-5区第7層出土。

剝片（7～11）

縦長剝片と横長剝片がある。背腹両面の剝離方向が同一のもの（10・11）と大きくずれるもの（7・9）などがある。7・11には原礫面が存在する。7はA区河川跡、10はG区第3層、その他はS区第5層出土。

石核（12）

剝片剝離作業は打面を転位しながら、各作業面を打面として行われる。打面は主として上面に設定される調整打面で、目的剝片は横長もしくは寸づまりの縦長剝片である。T-5区第7層出土。

砥石（13）

上下両面を研砥面とする、仕上げ砥。U区第4層出土。

4 小結

前回の試掘調査では、遺物包含層の堆積している工事路線については大まかにその分布範囲を把握していたが、遺構は幼稚園グラウンドのわずか1ヶ所で確認していたにとどまっていた。今回の調査では幼稚園敷地で10ヶ所、小学校敷地で15ヶ所設定した調査区のうち、幼稚園敷地では3ヶ所、小学校敷地では9ヶ所で遺構もしくは遺物包含層を検出した。

検出した遺構には竪穴住居跡、土壇、溝、柱穴などの集落関連遺構と河川跡がある。大半の遺構は小学校敷地の南部および西部のグラウンドに分布している。

幼稚園の敷地では河川跡、土壇、柱穴および遺物包含層を検出した。河川跡は幅約3.6m以上、検出面からの深さは最大で約90cmの規模をもち、北東から南西に走行する。今回はじめて検出したが、検出長が十分でないため、構内のどの部分を貫流するのか現時点ではわからない。出土遺物にはやや時期的に遡るものも含まれるが、庄内併行期のものが主体

を占める。

南部に位置する小学校低学年棟周辺のS区では、北東から南西に向かって地山が大きく落ち込んでおり、谷状の地形を呈する。このような地山の落ち込みは周辺ではみられず、構内の南西端部付近では東から西に延びる丘陵が局部的に樹手状に張りだしていることを示唆している。埋積土は数層に分層されるが、同一層に弥生時代中期に遡る可能性がある壺や庄内併行期から布留式併行期の遺物が混在しており、単一時期の遺物によって構成されておらず、一括性に乏しい。

竪穴住居跡は小学校低学年棟周辺のT-3区で1棟、小学校グラウンドのU区で2棟の計3棟を検出した。T-3区で検出した住居跡は壁溝が残存しているにすぎず、平面形態は円形である。出土遺物はないが、周辺の調査区から弥生時代中期に遡る遺物が出土していることなどからも弥生時代中期～後期のものと考えられる。U区の住居跡は切り合い関係にあり、平面形態が円形のものと同方形系統のものがある。前者は時期決定の決め手を欠くが、甕の底部の形状から弥生時代後期でも新しい時期から庄内併行期のものであろう。後者の出土遺物も少ない。上層の遺物包含層からは口縁端部の形状はわからないが、口縁部外面の立ち上がり部に櫛描き凹線文がみられない山陰系の甕や胴部内面がヘラケズリされず刷毛目を用いる甕など、明らかに布留式にまで下がる遺物を含まないことから、庄内式の古い段階に位置づけられよう。

小学校運動場ではU区のすぐ南西で布留式併行期の竪穴住居跡が検出されている³⁾。したがって、幼稚園・小学校敷地では弥生時代中期～後期、庄内式併行期、布留式併行期の少なくとも3時期の住居が営まれていたことになる。A区の河川跡、S区の谷状の落ち込みなどからも同時期の遺物が出土することも傍証となる。居住地はグラウンド南半部から以東が選地されており、庄内式～布留式併行期が集落の主体となる時期である。弥生時代中期～後期の遺構は幼稚園・小学校敷地のすぐ東側に存在する亀山西麓に所在する亀山遺跡⁴⁾でも検出されており、リンクージュする集落構成遺構がさらに分布している可能性がある。

なお、小学校低学年棟の南側に位置するT-1区では、室町時代の土壌が検出されている。幼稚園・小学校敷地でははじめて検出した中世の遺構で、布留式併行期以後、散発的に遺物は出土しているが基本的には15～16世紀まで遺跡の断絶期間がある。T-5区でも15～16世紀の遺物が出土しており、当該期の集落が存在していることが予想される。

出土遺物のうち注目しておきたいものがいくつかある。

まず、D区で出土した突帯文の甕は幼稚園・小学校敷地でははじめて出土した縄文土器

である。周辺での当該期の遺跡は、亀山を挟んだ北東約 500m に位置する後河原(松柄)遺跡⁵⁾が知られているにすぎない。遺物は遺跡の東側を南北に走行する一の坂川の堆積作用に起因する二次堆積層からの出土で、出土状態が異なる。幼稚園・小学校敷地の南約 200m に位置する中学校敷地でも後・晩期の遺物が遺物包含層から出土しており、亀山西方の地域にも新たな縄文時代後・晩期の遺跡が存在することが予想される。

また、S 区では内面に炭素を吸着させる黒色土器 A 類が出土した。断面三角形の低い高台をもつ底部の資料で、おおよそ 10 世紀代に比定される。県内では宮衙、寺院跡などを除いて一般の集落跡からの出土例は少なく、一般集落への流入・流通経路はいまだ不明瞭な部分が多い。亀山構内での当該期の遺構の検出が期待される。また、T-1 区で出土した土師器の皿はいわゆる大内氏館「B 式土師器」⁷⁾で、14 世紀後半～16 世紀中頃にかけて存続した大内氏館の後半期に、大内氏内部で独自に生産・流通・消費した土師器である。従来、大内氏館跡⁸⁾や大内氏の別邸である築山跡および大内氏臣下の集団墓である瑠璃光寺跡遺跡¹⁰⁾などの大内氏関連の諸施設や供養施設から特徴的に出土することが知られていた。附属中学校敷地でも出土例¹¹⁾があり、亀山構内一帯に大内氏関連施設が存在していた可能性がある。

(古賀・河村)

[注]

- 1) 山口大学埋蔵文化財資料館「亀山構内教育学部附属学校汚水排水管布設に伴う試掘調査」(『山口大学構内遺跡調査研究年報VI』、1987 年)。
- 2) 山口大学埋蔵文化財資料館「教育学部附属山口小学校・幼稚園構内の試掘調査」(『山口大学構内遺跡調査研究年報III』、1985 年)。
- 3) 前掲注 2)。
- 4) 小野忠熙「本州西端地方における古代の壘・濠遺跡」(『古代学』第 5 卷第 2 号、古代学協会、1956 年)。
- 5) 浜田清吉『山口市後河原の遺物発見地』(山口大学教育学部、1953 年)。
- 6) 前掲注 1)。
- 7) 山口市教育委員会『大内氏館跡VII—大内氏遺跡発掘調査概報VIII・概要—』(1987 年)。
- 8) a 山口市教育委員会『大内氏館跡I』(1981 年)。
b 山口市教育委員会『大内氏館跡II』(1980 年)。
c 山口市教育委員会『大内氏館跡III』(1981 年)。
d 山口市教育委員会『大内氏館跡IV』(1982 年)。
e 山口市教育委員会『大内氏館跡V』(1983 年)。
f 山口市教育委員会『大内氏館跡VI』(1984 年)。
g 山口市教育委員会『大内氏館跡VII』(1986 年)。
h 前掲注 7)。
- 9) 山口市教育委員会『大内氏築山跡I』(1986 年)。
山口市教育委員会『大内氏築山跡II』(1988 年)。
山口市教育委員会『大内氏築山跡III』(1989 年)。
山口市教育委員会『大内氏築山跡IV』(1990 年)。
- 10) 山口市教育委員会『瑠璃光寺跡遺跡』(1988 年)。
- 11) 前掲注 1)。

出土遺物観察表

Tab. 3 出土遺物観察表

法量()は復原値

番号	器種	法量(cm) (①口径②底径③器高)	色調 (①外面 ②内面)	胎土	焼成	備考
A区						
1	弥生土器 壺	②(4.8)	①黄灰色 (2.5Y6/1) ②灰黄褐色 (10YR6/2)	不良	良好	好
2	弥生土器 甕	②(7.0)	①にぶい橙色 (7.5YR7/4) ②灰黄褐色 (10YR4/2)	不良	良好	好
3	弥生土器 甕	②(6.6)	橙色 (2.5YR7/8)	不良	良好	好
4	弥生土器 甕		にぶい黄橙色 (10YR3/6)	不良	良好	好
5	弥生土器 甕		①橙色 (2.5YR7/6) ②浅黄褐色 (7.5YR8/3)	やや不良	良好	好
6	弥生土器 鉢	①(14.8)	にぶい褐色 (7.5YR6/3)	やや不良	良好	好
7	土師器 甕	①(13.8)	淡黄色 (2.5Y8/3)	不良	不良	
8	土師器 甕	①(16.8)	①橙色 (2.5YR6/6) ②にぶい褐色 (5YR7/4)	やや不良	良好	織内系
9	土師器 甕	①(11.8)	①褐色 (5YR7/6) ②淡黄色 (2.5Y8/3)	良好	良好	好
10	土師器 甕		①灰黄褐色 (10YR6/2) ②淡黄色 (2.5Y8/3)	やや不良	良好	織内系
11	土師器 甕	①(16.1)	①灰褐色 (5YR5/2) ②にぶい黄褐色 (10YR7/3)	良好	良好	山陰系
12	土師器 甕		にぶい褐色 (7.5YR7/3)	良好	良好	山陰系
13	弥生土器 甕	②(4.2)	①褐色 (2.5YR6/6) ②明赤褐色 (2.5YR5/6)	やや不良	良好	好
14	土師器 甕		①赤褐色 (10R6/6) ②褐色 (2.5YR7/8)	やや不良	良好	山陰系
15	土師器 高坏		①にぶい褐色 (5YR7/4) ②にぶい黄褐色 (10YR7/3)	良好	良好	好
D区						
16	縄文土器 甕		黒褐色 (10YR3/1)	不良	良好	好
17	土師器 高坏		褐色 (5YR7/6)	良好	良好	好
18	土師器 高坏	②(9.2)	褐色 (5YR7/8)	良好	良好	好
G区						
19	土師器 皿		①浅黄褐色 (2.5Y7/3) ②灰色 (5Y5/1)	良好	良好	好
S区						
20	弥生土器 壺		にぶい黄褐色 (10YR7/3)	良好	良好	好
21	弥生土器 甕	②(4.3)	①にぶい褐色 (7.5YR7/3) ②淡黄色 (2.5Y7/2)	良好	良好	好
22	土師器 甕		①にぶい黄褐色 (10YR7/3) ②淡黄色 (2.5Y8/3)	やや不良	良好	好
23	弥生土器 甕		①褐色 (2.5YR6/6) ②褐色 (7.5YR6/6)	良好	良好	好
24	土師器 小型丸底壺	①(10.1)	にぶい褐色 (5YR7/4)	良好	良好	好
25	土師器 小型丸底壺		褐色 (5YR7/6)	やや不良	良好	好
26	土師器 甕		にぶい黄褐色 (10YR7/3)	やや不良	良好	好
27	土師器 甕		にぶい褐色 (5YR6/3)	良好	良好	好 布留系
28	土師器 甕		①褐色 (2.5YR7/6) ②浅黄褐色 (7.5YR8/3)	良好	良好	好
29	土師器 甕		にぶい褐色 (5YR6/4)	良好	良好	好
30	土師器 甕		①黄灰色 (2.5Y4/1) ②黒褐色 (10YR3/2)	良好	良好	好
31	土師器 甕		褐色 (2.5YR6/6)	良好	良好	好
32	土師器 甕		にぶい褐色 (7.5YR7/4)	やや不良	やや不良	
33	土師器 甕		赤褐色 (10R6/6)	良好	良好	好
34	土師器 甕		にぶい褐色 (7.5YR7/4)	良好	良好	好
35	土師器 甕	①(12.8)	にぶい褐色 (7.5YR6/4)	良好	良好	好
36	土師器 甕		浅黄褐色 (10YR8/3)	良好	良好	好 織内系
37	土師器 鉢		にぶい黄褐色 (10YR7/3)	良好	良好	好
38	土師器 埴	①(13.1)	暗褐色 (N3/10)	良好	良好	好
39	土師器 高坏		褐色 (5YR7/6)	良好	やや不良	

亀山構内教育学部附属幼稚園・山口小学校汚水排水管布設に伴う発掘調査

法量()は復原値

番号	器種	法量(cm) (①口径②底径③器高)	色調 (①外面 ②内面)	胎土	焼成	備考
40	土師器 高坏		橙色 (5YR7/6)	良 好	やや不良	
41	土師器 高坏		①にぶい橙色 (7.5YR7/4) ②にぶい黄橙色 (10YR7/2)	良 好	良 好	
42	土師器 高坏		黄橙色 (7.5YR8/8)	良 好	やや不良	
43	土師器 高坏		①橙色 (7.5YR7/6) ②にぶい黄橙色 (10YR7/3)	やや不良	良 好	
44	土師器 高坏		浅黄橙色 (7.5YR8/4)	良 好	良 好	
45	土師器 高坏		①にぶい橙色 (5YR7/4) ②にぶい黄橙色 (10YR6/4)	良 好	良 好	
46	土師器 高坏		橙色 (5YR7/6)	良 好	良 好	
47	土師器 高坏		にぶい黄橙色 (10YR6/3)	良 好	良 好	
48	土師器 高坏	②(10.4)	黄橙色 (7.5YR8/8)	良 好	良 好	
49	土師器 高坏	②(10.6)	淡橙色 (5YR8/3)	良 好	良 好	
50	須恵器 坏蓋		灰色 (N5/0)	良 好	良 好	
51	黒色土器 碗	②(6.6)	①黄灰色 (2.5Y4/1) ②黒色 (N1.5/0)	良 好	良 好	内黒
52	黒色土器 碗	②(5.8)	①灰白色 (5Y8/1) ②黒色 (N1.5/0)	良 好	やや不良	内黒
53	瓦質土器 鍋		①黒灰色 (N3/0) ②灰白色 (7.5Y7/1)	良 好	良 好	
T区						
54	土師器 皿		浅黄橙色 (7.5YR8/3)	良 好	良 好	
55	土師器 皿		浅黄色 (2.5Y7/3)	良 好	良 好	大内氏館B式
56	土師器 皿	②(5.6)	灰白色 (2.5Y8/2)	良 好	良 好	
57	土師器 皿	②(5.6)	橙色 (7.5YR7/6)	良 好	良 好	
58	土師器 皿		淡赤橙色 (2.5YR7/4)	良 好	良 好	
59	土師質土器 鍋		淡黄色 (2.5Y8/3)	良 好	やや不良	
60	土師器 碗	②(6.5)	①明褐色 (7.5YR7/2) ②にぶい黄橙色 (10YR7/2)	良 好	良 好	
61	土師質土器 搦鉢		にぶい黄橙色 (10YR7/4)	やや不良	良 好	
62	須恵質陶器 搦鉢		①灰白色 (N7/0) ②灰色 (N5/0)	良 好	良 好	
63	瓦質土器 鍋		黒色 (10Y2/1)	良 好	良 好	
64	瓦質土器 搦鉢		暗灰色 (N3/0)	良 好	やや不良	
65	瓦質土器 搦鉢		灰色 (5Y4/1)	良 好	良 好	
66	瓦質土器 鍋		①黄灰色 (2.5Y5/1)	良 好	良 好	
U区						
67	弥生土器 甕	②(6.0)	①にぶい黄橙色 (10YR6/3) ②暗灰黄色 (2.5Y5/2)	良 好	良 好	
68	弥生土器 甕	②(3.8)	①にぶい橙色 (5YR7/4) ②にぶい橙色 (7.5YR7/4)	良 好	良 好	
69	弥生土器 不明		①黒褐色 (10YR3/1) ②黄灰色 (2.5Y5/1)	良 好	良 好	
70	土師器 壺	①(10.0)	①灰黄褐色 (10YR6/2) ②黄灰色 (2.5Y4/1)	良 好	良 好	
71	土師器 甕	①(13.2)	浅黄橙色 (10YR8/3)	良 好	良 好	
72	土師器 甕	①(16.2)	にぶい黄橙色 (10YR6/3)	良 好	良 好	
73	土師器 甕	①(16.3)	にぶい橙色 (7.5YR7/3)	良 好	良 好	
74	土師器 甕	①(16.8)	にぶい黄橙色 (10YR7/4)	良 好	良 好	
75	土師器 甕		浅黄橙色 (10YR8/4)	不 良	やや不良	
76	土師器 甕		①橙色 (2.5YR6/6) ②にぶい黄橙色 (10YR7/3)	良 好	良 好	
77	土師器 甕		橙色 (5YR7/6)	良 好	良 好	山陰系
78	土師器 碗		橙色 (5YR6/6)	良 好	良 好	
79	土師器 碗		浅黄橙色 (7.5YR8/4)	良 好	良 好	
80	土師器 鉢		橙色 (7.5YR6/6)	良 好	良 好	手握
81	土師器 高坏	②(15.7)	①橙色 (7.5YR7/6) ②にぶい黄褐色 (10YR5/4)	良 好	良 好	

出土遺物観察表

法量()現存値

番号	器種	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	石質	出土層順
1	掻器	28.0	15.5	10.0	3.5	姫島産黒曜石	T-3区第1号土壌
2	二次加工のある剝片	27.5	13.0	5.5	2.5	姫島産黒曜石	S区第5層
3	使用痕のある剝片	21.0	12.5	4.0	0.8	腰岳産黒曜石	S区第5層
4	使用痕のある剝片	(14.0)	(10.0)	4.0	0.4	腰岳産黒曜石	S区第5層
5	使用痕のある剝片	29.0	17.5	6.0	2.2	讃岐岩質安山岩	T-5区第6層
6	使用痕のある剝片	(19.0)	13.5)	3.5	1.2	姫島産黒曜石	T-5区第7層
7	剝片	31.5	29.0	11.0	7.4	腰岳産黒曜石	A区河川跡
8	剝片	14.0	31.5	6.5	3.6	讃岐岩質安山岩	S区第5層
9	剝片	14.0	17.5	3.5	1.0	腰岳産黒曜石	S区第5層
10	剝片	(20.5)	22.5	5.5	2.1	姫島産黒曜石	G区第3層
11	剝片	(35.0)	39.0	4.5	8.0	姫島産黒曜石	S区第5層
12	石核	28.5	44.5	27.0	31.6	姫島産黒曜石	T-5区第7層
13	砥石	(56.0)	(58.0)	43.0	102.6	珪長岩	U区第4層

亀山構内教育学部附属幼稚園・山口小学校汚水排水管布設に伴う発掘調査



(1) A区西半部河川跡(西側から)



(2) A区東半部河川跡(北東から)

(1)

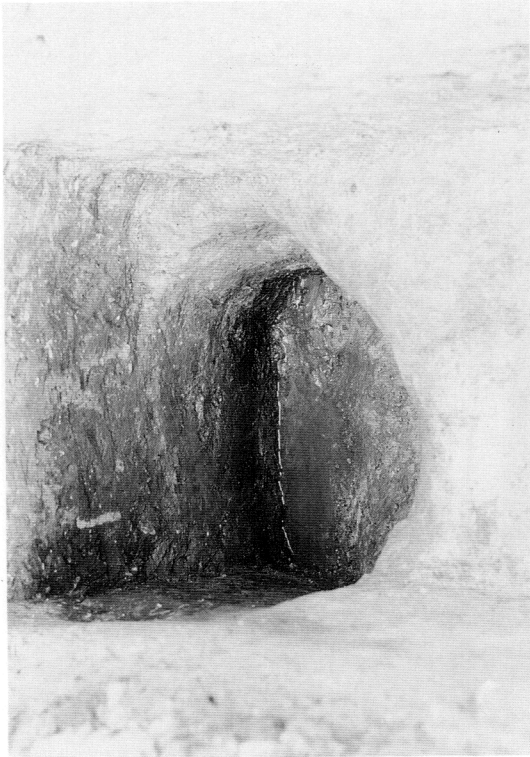


(1) A区拡張部河川跡(南西から)



(2) D区西壁南端部土層断面(東から)

亀山構内教育学部附属幼稚園・山口小学校汚水排水管布設に伴う発掘調査



(1) G区東端部土壇(南西から)



(2) G区西端部柱穴(南から)



(3) P区柱穴・溝切り合い状況(北から)



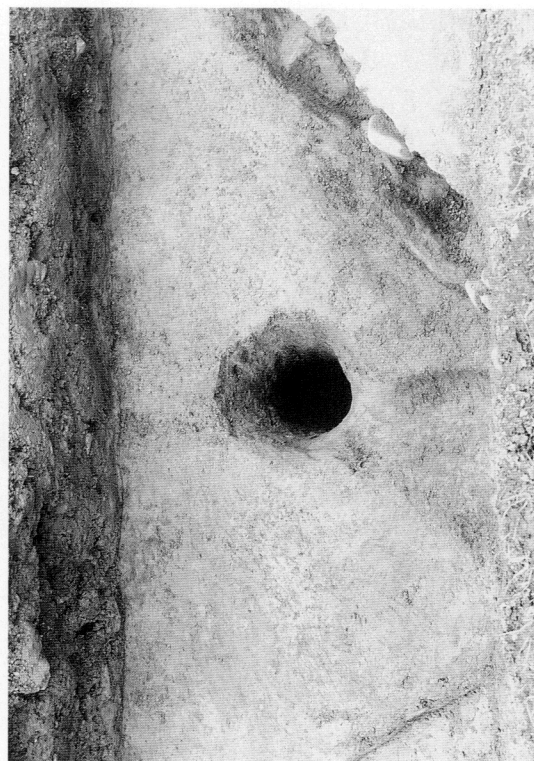
(4) P区柱穴・溝北から

亀山構内教育学部附属幼稚園・山口小学校汚水排水管布設に伴う発掘調査

(4)



(1) P区土壇(北から)



(2) R区柱穴(北西から)

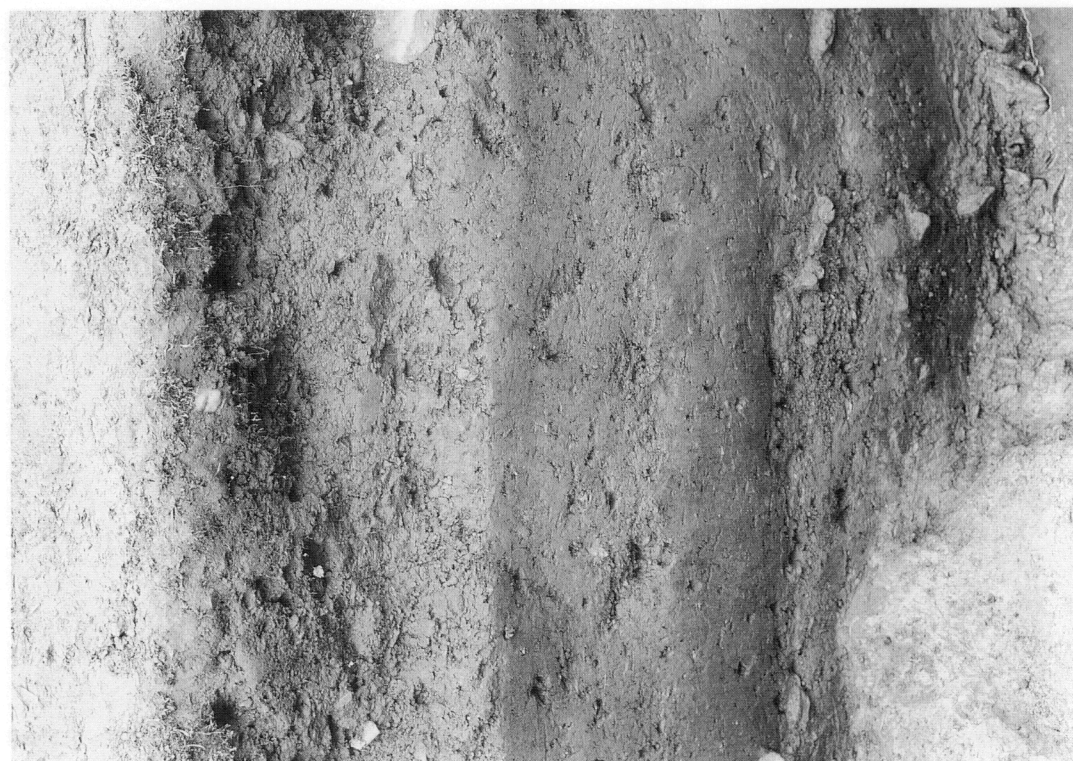


(3) S区全景(北東から)

亀山構内教育学部附属幼稚園・山口小学校污水排水管布設に伴う発掘調査
(5)



(1) S区西半部地山落ち込み状況(南西から)



(2) S区南端西端部土層断面(北西から)

亀山構内教育字部附属幼稚園・山口小学校汚水排水管布設に伴う発掘調査 (6)



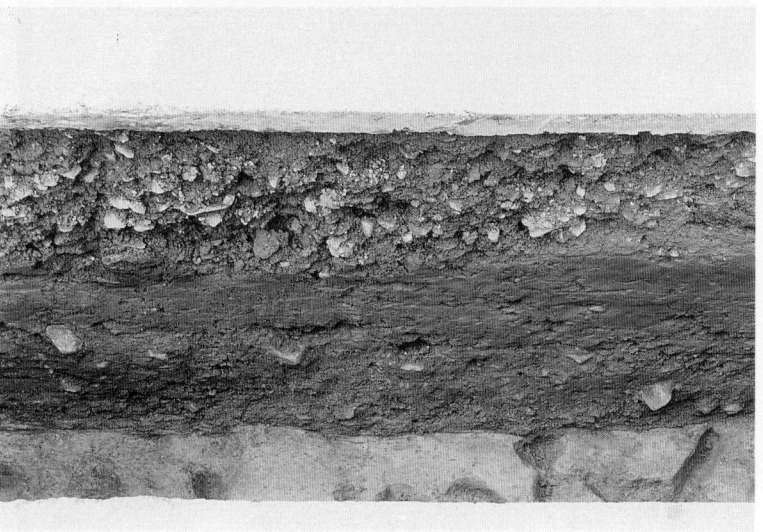
(1) T-1区土壇(南西から)



(2) T-1区土壇土層断面(北東から)



(3) T-1区南端部地山落ち込み状況(北東から)

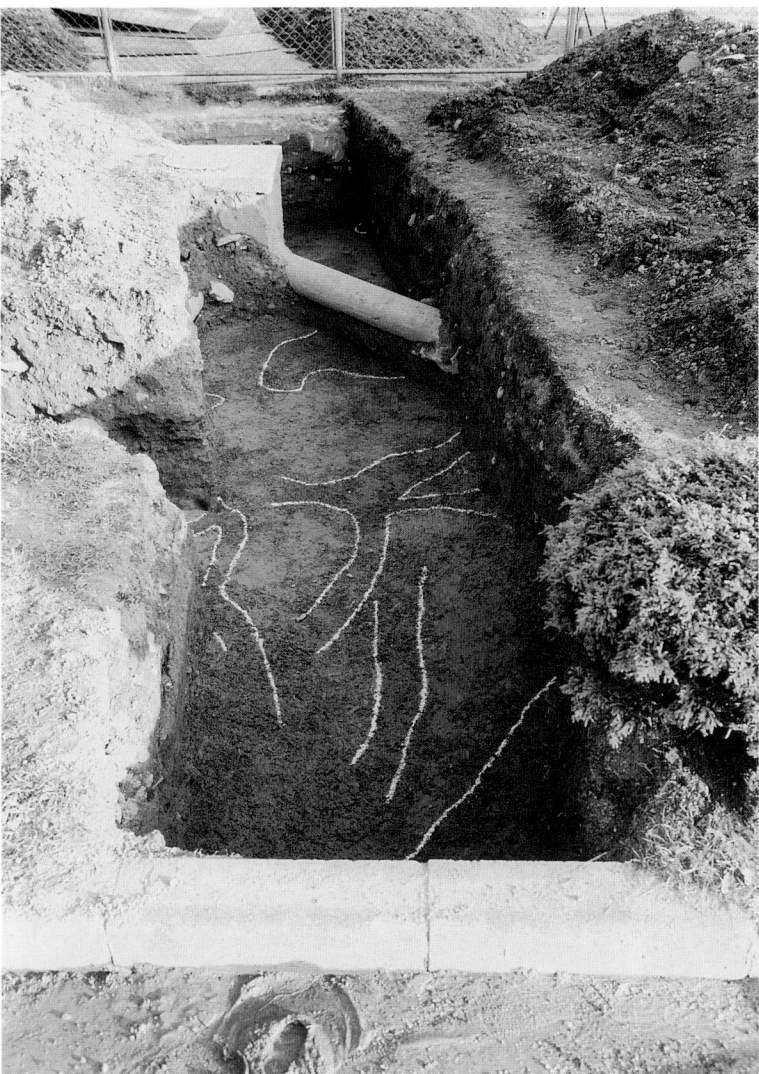


(4) T-2区西壁中央部土層断面(北東から)

亀山構内教育学部附属幼稚園・山口小学校汚水排水管布設に伴う発掘調査 (7)



(1) T-3区東半部遺構検出状況(南西から)



(2) T-3区西半部遺構検出状況(北東から)

亀山構内教育学部附属幼稚園・山口小学校汚水排水管布設に伴う発掘調査 (8)



(1) T-3区東半部完掘状況(南西から)



(2) T-3区西半部完掘状況(北東から)

亀山構内教育学部附属幼稚園・山口小学校汚水排水管布設に伴う発掘調査 (9)



(1) T-3区第1号土壙(南東から)



(2) T-3区第2号土壙(北から)



(3) T-4区完掘状況(南東から)

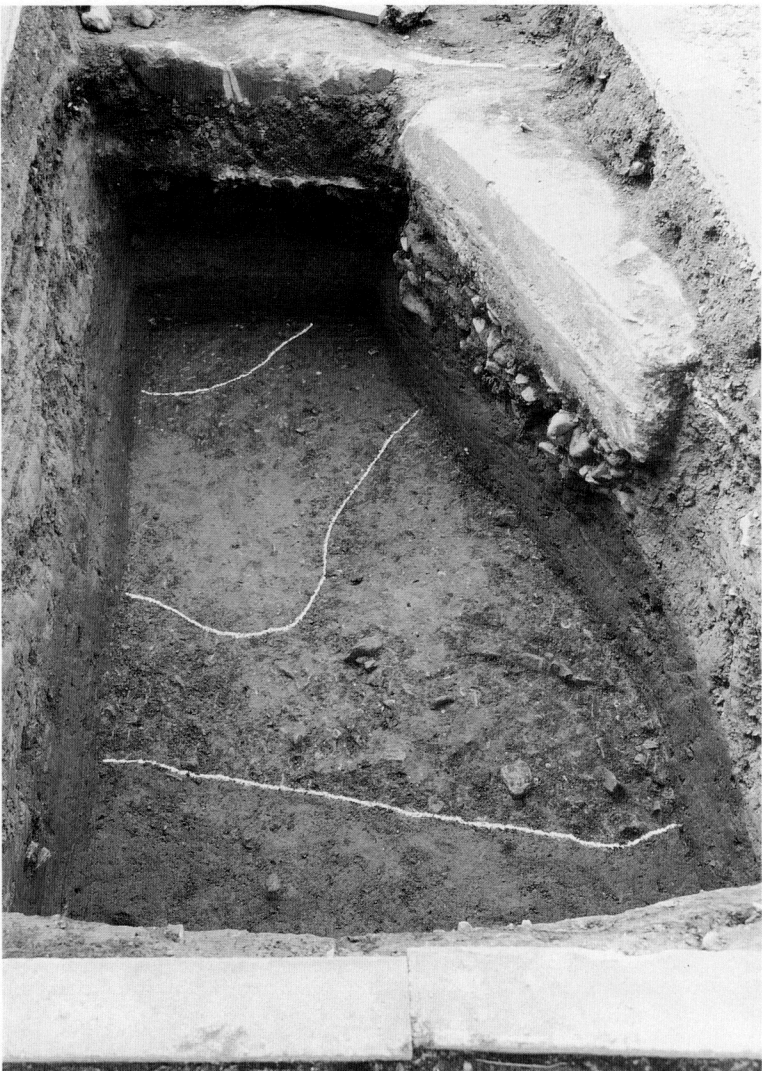


(1) T-5区北半部遺構検出状況(南東から)

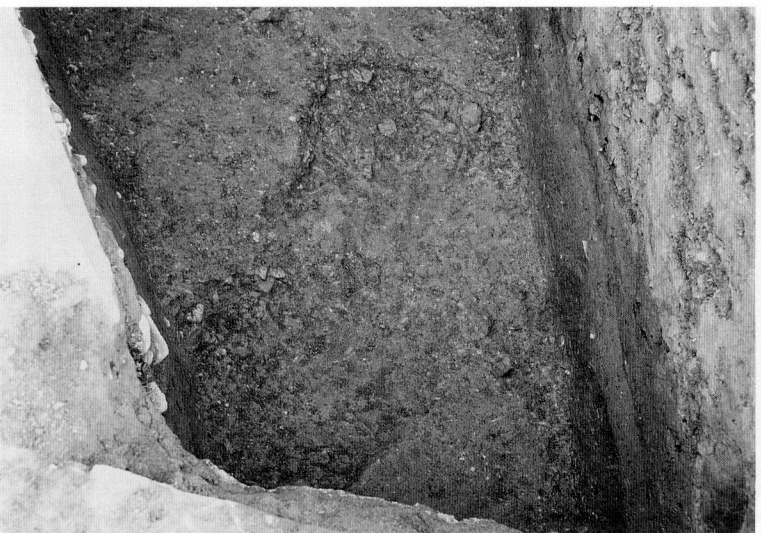


(2) T-5区北半部完掘状況(南東から)

亀山構内教育学部附属幼稚園・山口小学校汚水排水管布設に伴う発掘調査 (11)



(1) T-5区南半部遺構検出状況(南東から)



(2) T-5区第1号土壙(北西から)



(3) T-5区第2号土壙(南東から)



(1) U区遺構検出状況(北東から)



(2) U区完掘状況(北東から)

亀山構内教育学部附属幼稚園・山口小学校汚水排水管布設に伴う発掘調査
(13)



(1) U区第1・2号竖穴住居跡および第1・2号溝検出状況(北西から)



(2) U区第1号竖穴住居跡および第2号溝(北西から)

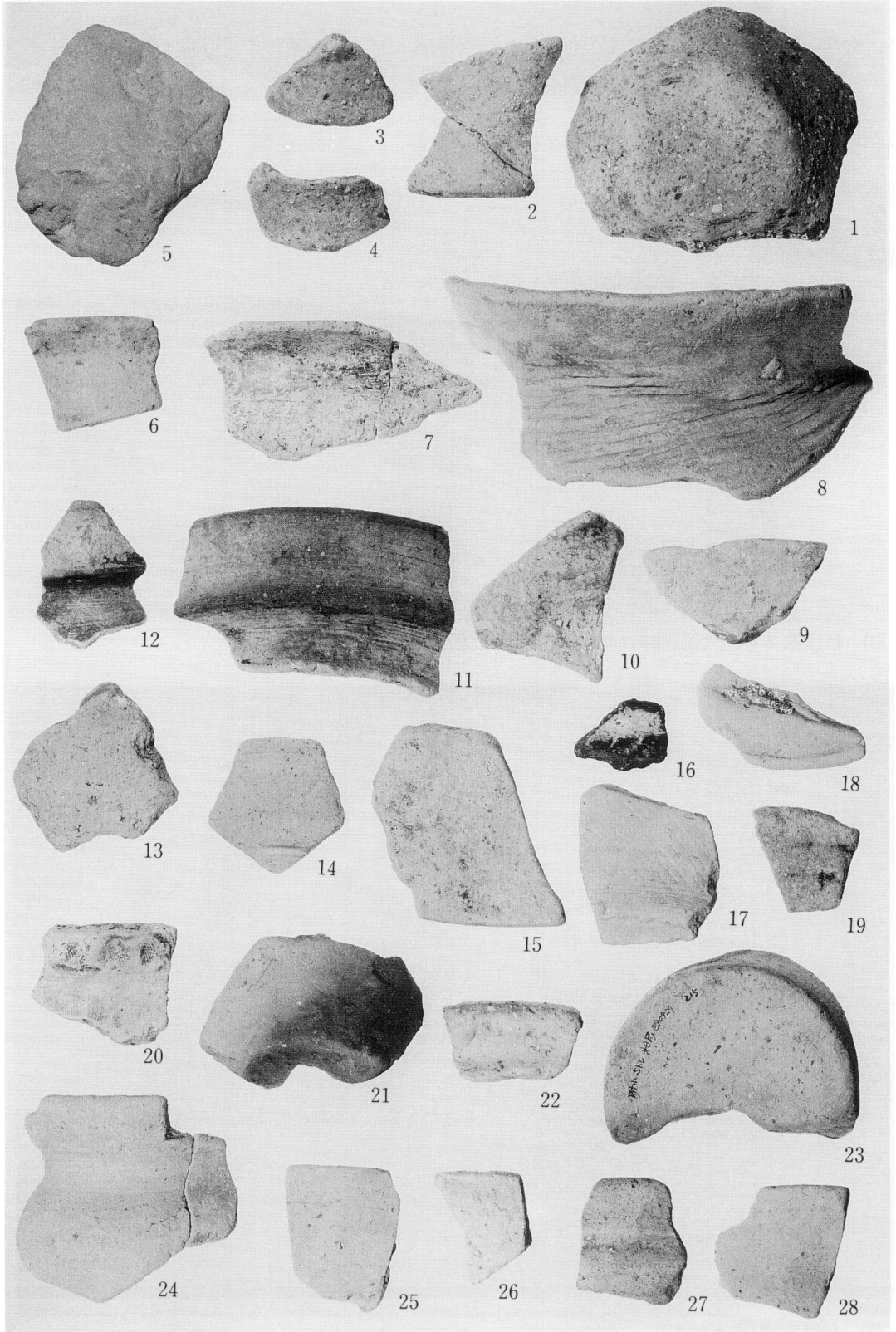


(1) U区第2号竖穴住居跡および第1号溝(北西から)



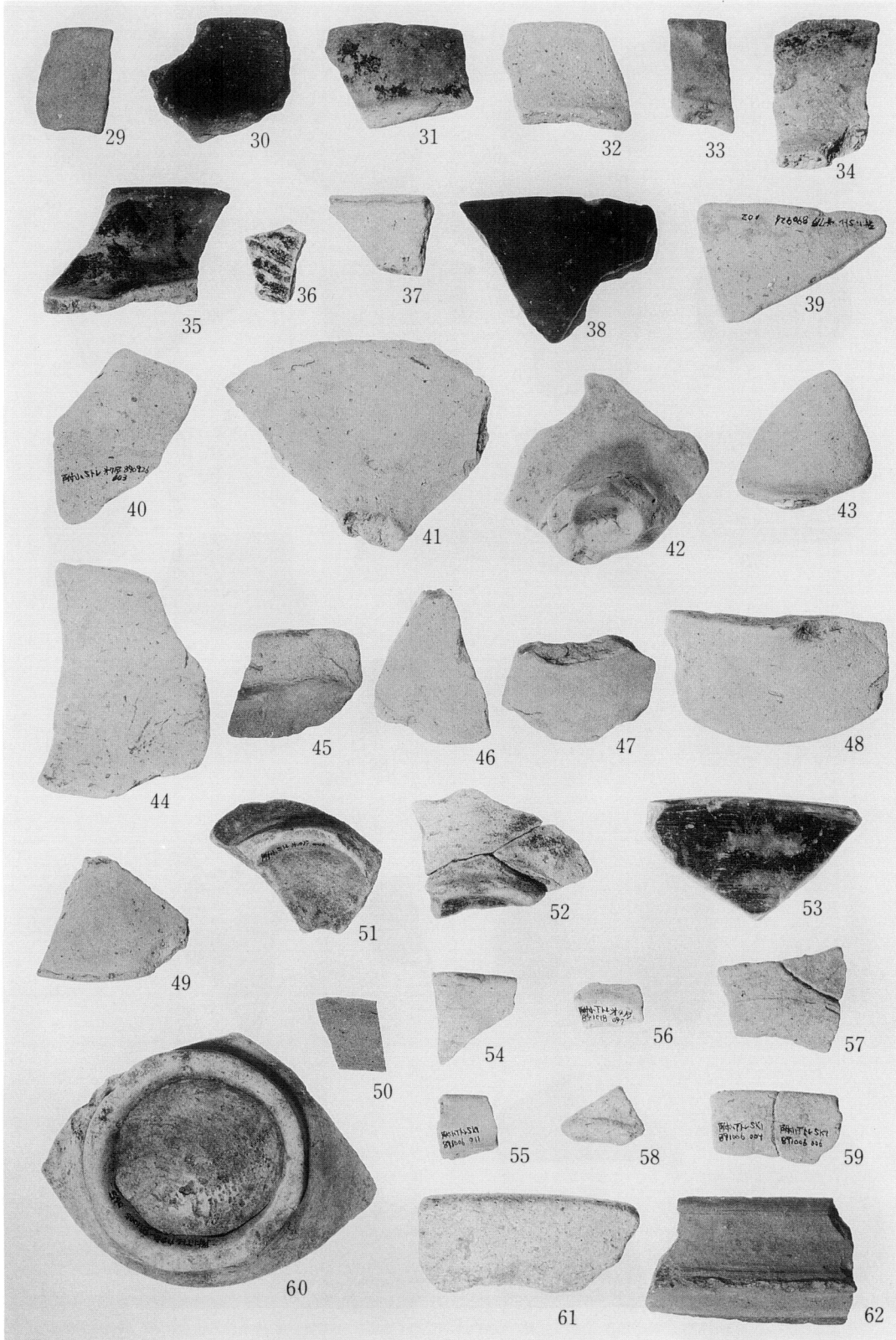
(2) U区土壙(南西から)

亀山構内教育学部附属幼稚園・山口小学校汚水排水管布設に伴う発掘調査 (15)



出土遺物 (1)

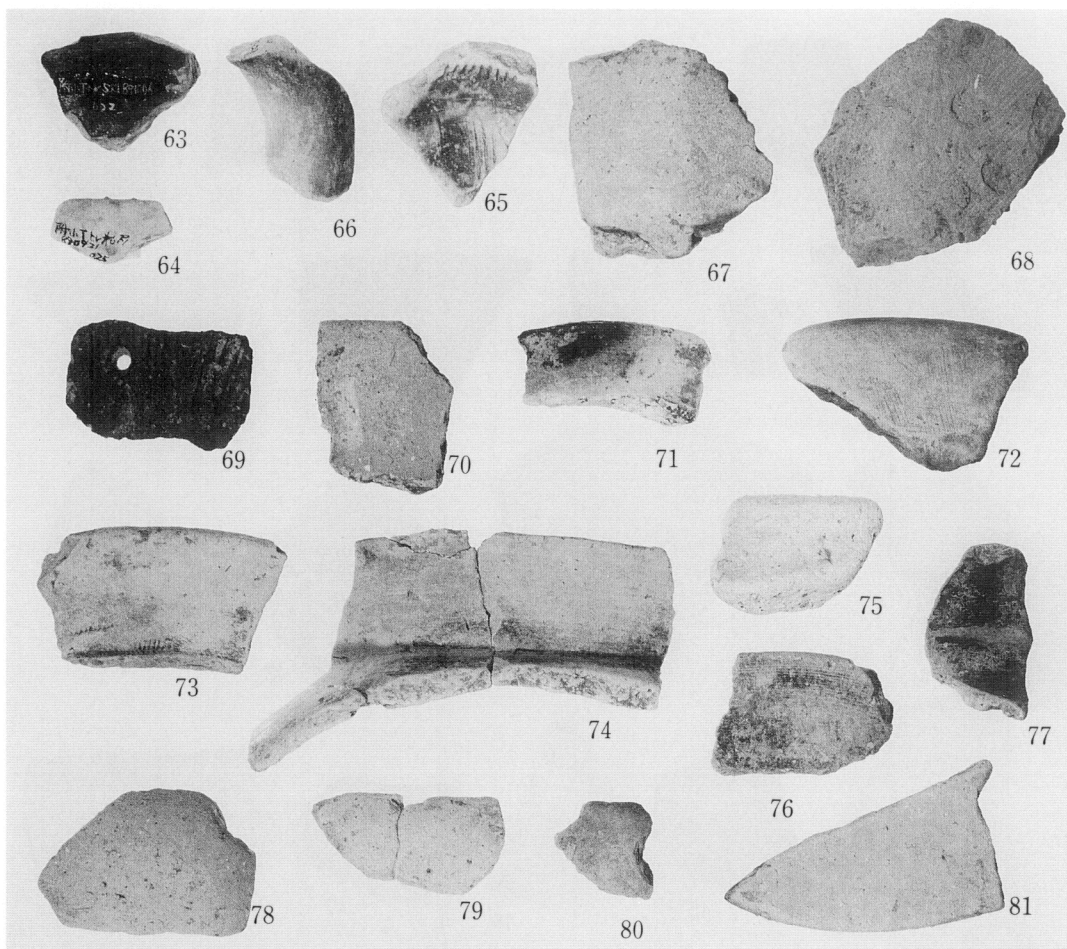
約 1 : 2



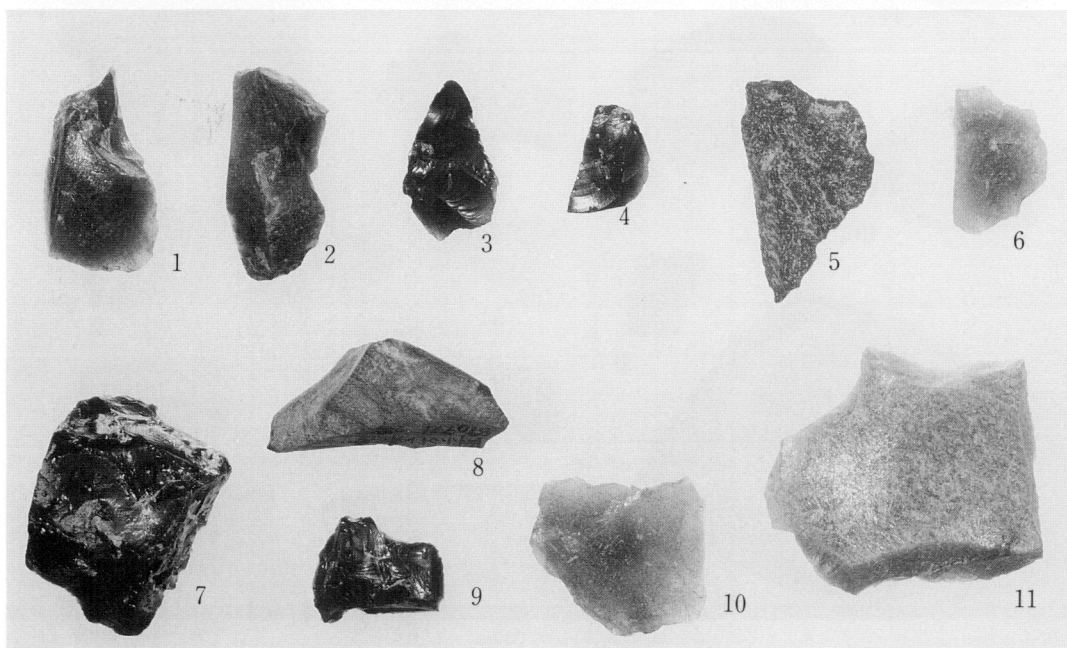
出土遺物 (2)

約 1 : 2

亀山構内教育学部附属幼稚園・山口小学校汚水排水管布設に伴う発掘調査



(17)



出土遺物 (3)

土器…約 1 : 2、石器…約 1 : 1